

1. 屋外活動

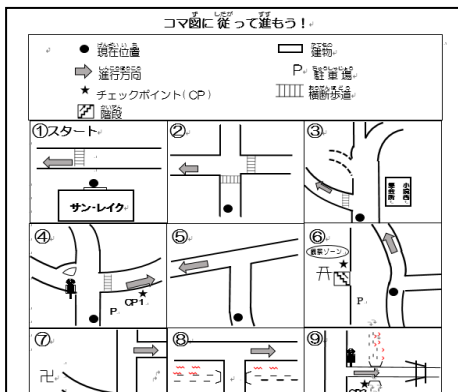
No.	100	ファイヤーのつどい			
概 要	〇火を囲んで、出し物やゲームや歌などを楽しみながら交流する。				
内 容	人数(人)	～150人	時間	2時間程度	
	対象	小1以上	時期	通年	
	場所	ファイヤー場(～150人程度) ・ 集いの広場(～50人程度)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	〇 仲間と共に過ごす喜びを味わい、友情を深める。 〇 グループごとに、準備・片付けや活動することで協力する心、思いやりの心を育てる。 〇 火の神秘さや大切さ、自然の偉大さに気づく。				
準 備	施設から貸出	・ 営火長の衣装、冠、つえ ・ アンプ ・ ワイヤレスマイク ・ CDデッキ ・ コードリール ・ キャンプファイヤー用音楽CD ・ チャッカマン など			
	団体で準備	・ ファイヤーのつどい 台本 ・ 活動しやすい服装(雨天時には雨具、寒い時期は防寒具) ・ 運動靴 ・ スタンツ等で必要な物 ・ 軍手(準備係) ・ 虫除けスプレー ＜事前に予約注文が必要なもの＞ ・ 薪セット ・ トーチ棒 ・ 灯油 ・ ロウソク(荒天時用)			
	確認事項	・ 当日複数の団体がファイヤーのつどいを行う場合は、団体の規模等により、ファイヤー場、集いの広場のいずれかを指定する。 ・ 引率者は16時30分頃から職員と準備、打ち合わせを行う。その際、実施方法や監視体制・安全管理についても確認を行う。 ・ 荒天時は、キャンドルのつどいへの変更が可能である。(ロウソクの事前注文が必要。キャンセル可) ・ 利用団体は、健康状態の把握に努め、留意すべきことがあれば事前に相談する。			

	内 容	留意事項
活動前	16時30分頃 エントランス集合。 本施設職員による薪の組み方、片付け方等の説明後、準備を行う。 やぐら 見本  トーチ 見本 	・ 団体は、10名程度の研修者を準備係に当てること。この時に借用物の確認をすること。 ☆貸出し可能な物品☆ ・ チャッカマン ・ 営火長衣装など ・ CDデッキ・音楽用CD ・ コードリール ・ ワイヤレスマイク ・ アンプ
活動の説明	担当職員が以下のような説明を行う。 ・ 活動の流れについて。 ・ やぐら(火床)への点火の仕方。(必ず風上から。追加の薪も風上から) ・ トーチ棒の扱い。(分火の際は、もらうまでは必ず下向きで待ち、もらうときに挙げる。消火と後処理の仕方。)	・ 団体で必要に応じて説明内容を加えらる とよい。
展 開	〇 「ファイヤーのつどい」の基本パターンは、 第1部 迎火の儀式 第2部 親睦の火(ゲーム、スタンツ等) 第3部 送火の儀式 (このパターンにこだわる必要はない。) ※事務室に、参考資料あり。 〇 終了後、ファイヤーの消火を行う。(消火後、事務室に連絡) 〇 翌日の朝、残った薪・灰を捨て、まわりを掃除する。	・ 火を扱う活動になるので、引率者は、活動中の安全について十分注意する。 ・ 終了後の余韻を大切にしたい。 ・ 楽しかったこと、よかったことを発表しあう。 ・ 終了後、消火を確実に(水道ホースを利用)、事務室に連絡し、職員の点検を受けること。(遅番職員は消防署へ終了連絡をする) ・ 最終的な掃除は、翌朝行い、営火炉の下に落ちたり、残ったりした灰は、きれいに取り除く。残灰や燃え残りは消火缶に入れておく。7時05分に職員による点検を受ける。

No.	101	オリエンテーリング(OL)			
概 要	グループでマップをたよりに歩き、ポストを探していく。各ポストでは問題を解き、答えを記入する。				
内 容	人数(人)	～100人	時間	2～3時間	
	対象	小1以上	時期	通年	
	場所	敷地内及び近隣地域			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○ マップをもとにグループで協力してポストを探したり問題に答えたりして、協力する心や思いやりの心を育てる。 ○ 森の草花や生き物を見たり、地形を感じて歩いたりする。 ○ 地域の方と交流する。				
準 備	施設から貸出	＜引率者に＞ トランシーバー、マスターマップ(引率者用) ＜各グループに＞ マップ(チェックカード)、バインダー、腕時計、筆記用具			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)			
	確認事項	・グループ(1グループ5人程度)を編成する。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。 ・事前にロングコース(90分程度)、ショートコース(60分)程度のいずれかを選択する。			

	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の立ち場所や緊急時の連絡方法(無線の使い方)を確認する。 ○答え合わせの進め方を確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	<職員によるパワーポイントを使った説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○マスターマップを見ながら右のマップにポストの位置と歩くコースを書き写す。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照)	 
展 開	○2分程度の間隔で出発する。 ○地図を見ながら歩き、ポストを見つけていく。 ○ポストに吊り下げた問題を読み、答えを解答欄に記入する。(ポストの数はロングコースが16、ショートコースは13ある。) ○設定時間内にスタート地点に戻るよう気をつける。(活動時間は、ロングコースの場合は出発してから90分程度、ショートコースの場合は出発してから60分程度とする。) ○全グループがゴールした後、問題の答え合わせと得点計算を行う。 ○ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。	○一畑電車の線路は渡らない。また車の通行にも十分注意する。 ○引率者は立ち位置につき、無線のつながり具合を確認する。 ○無線は他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、活動中は立ち位置、その周辺での安全監視を行う。 ※職員は巡回を行う。

No.	102	ウォークラリー(WR)			
概要	コース図(コマ図)に従って歩き、グループでポイントを見つけていく。各ポイントには課題があり、解答をシートに記入しながらゴールをめざす。				
内容	人数(人)	～50人	時間	2～3時間	
	対象	小1以上	時期	通年	
	場所	近隣地域			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○ コマ図をもとに班で歩くことで、協力する心や思いやりの心を育てる。 ○ 森の草花や生き物を見たり地形を感じて歩いたりすることで、自然への興味関心をもつ。 ○ 地域の方と交流する。				
準備	施設から貸出	＜引率者に＞ トランシーバー、ルート図 ＜各グループに＞ コマ図用紙、バインダー、腕時計、筆記用具			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)			
	確認事項	・グループ(1グループ5人程度)を編成する。 ・子どもたちだけのグループで活動する場合は、小学校高学年以上が望ましい。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。 ・事前に、ロングコース(90分程度)、ショートコース(60分程度)のいずれかを選択する。 ・自作問題で各団体の研修のねらいに応じた活動も可能である。			

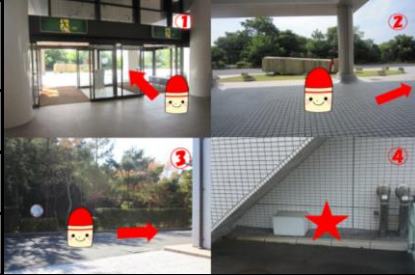
	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の立ち場所や緊急時の連絡方法(トランシーバーの使い方)を確認する。 ○答え合わせの進め方を確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	＜職員による説明＞ ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○コマ図の見方について確認する。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照)	○注意事項については安全面の他、仲間と共に草花や生き物を見たり地形を感じて歩いたりすることを大切にするように語りかける。
展開	○2分程度の間隔で出発する。 ○コマ図に従って歩いていく。 ○チェックポイントを見つけたらそこに書いてある課題の答え等を解答欄に記入する。(ポイントは全部で4ヶ所。プラス観察ゾーンが1ヶ所。) ○全グループがゴールした後、問題の答え合わせと得点計算を行う。 ○課題得点と時間得点の合計で他のグループと競う。 ・課題得点・・・100点(チェックポイントや観察ゾーンの問題やゲーム) ・時間得点・・・100点(1分遅れて帰ってくるごとに5点減点) ○ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。 コマ図に従って進もう！ 	○車の通行に十分注意する。 ○引率者は立ち位置につき、無線のつながり具合を確認する。 ○トランシーバーは、他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、活動中は立ち位置、その周辺での安全監視を行う。 ※職員は巡回を行う。 コマ図・・・矢印の方向へ進んでいきます。地図はないので、これのみが頼りです。チェックポイントで、いろいろな課題を解きます。

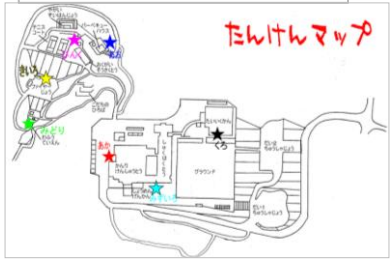
No.	103	スコアオリエンテーリング(スコアOL)			
概要	地図を見ながらグループごとに施設内の自然の中を歩き、設置されている白赤のポストを見つけていく。				
内容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	フリー	時期	通年	
	場所	敷地内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイントとその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○ ポイントを探す活動を楽しみながら、周辺の自然に親しむ。 ○ 仲間と協力してポイントを探し当てることで、協力する心や思いやりの心を育む。				
準備	施設から貸出	<引率者に> トランシーバー、地図 <各グループに> 地図、バインダー、腕時計、筆記用具、記入用紙			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)、虫除けスプレー			
	確認事項	・グループ(1グループ5人程度)を編成する。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認をする。 ・制限時間は60分程度であるが、団体の事情や参加者の実態等により変えてもよい。			

	内 容	留意事項																																																																																																																																																																																																																							
活動前	○進行・時間の設定・引率者の立ち場所や緊急時の連絡方法(トランシーバーの使い方)を確認する。 ○答え合わせの進め方を確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時は相談の上、実施判断をする。																																																																																																																																																																																																																							
活動の説明	○めあてや活動の進め方の説明を行う。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品の受け渡し。(準備物参照)	○コース以外のところは通らない。 ○山道を歩くので、ヘビやスズメバチなどの危険生物には注意する。																																																																																																																																																																																																																							
展 開	<職員による説明> ○全グループ一斉に出発する。 ○地図を見ながら歩き、施設内に設置されているポストを見つけていく。 ○ポストを見つけたら、記入用紙の番号とポストの数字が同じ所を探し、その横の記入欄へ該当の記号(カタカナ)を記入する。(ポイントは全部で38個) ○設定時間内にスタート地点に戻るよう気をつける。 ○全グループがゴールした後、問題の答え合わせと得点計算を行う。 ○ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。	○引率者は立ち位置につき、トランシーバーのつながり具合を確認する。 ○トランシーバーは他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、活動中は立ち位置、その周辺での安全監視を行う。 ※職員は巡回を行う。																																																																																																																																																																																																																							
	地図	記入用紙 スコアオリエンテーリング 記入用紙 <table> <tr> <th colspan="4">Aゾーン</th> <th colspan="4">Bゾーン</th> <th colspan="4">Cゾーン</th> </tr> <tr> <th>番号</th><th>記号</th><th>得点</th><th>小計</th> <th>番号</th><th>記号</th><th>得点</th><th>小計</th> <th>番号</th><th>記号</th><th>得点</th><th>小計</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td>10</td><td></td><td>16</td><td></td><td>5</td><td></td><td>26</td><td></td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td>10</td><td></td><td>17</td><td></td><td>20</td><td></td><td>27</td><td></td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td>20</td><td></td><td>18</td><td></td><td>10</td><td></td><td>28</td><td></td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td>10</td><td></td><td>19</td><td></td><td>10</td><td></td><td>29</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>20</td><td></td><td>20</td><td></td><td>20</td><td></td><td>30</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>30</td><td></td><td>21</td><td></td><td>5</td><td></td><td>31</td><td></td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>10</td><td></td><td>22</td><td></td><td>30</td><td></td><td>32</td><td></td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td>10</td><td></td><td>23</td><td></td><td>10</td><td></td><td>33</td><td></td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>20</td><td></td><td>24</td><td></td><td>20</td><td></td><td>34</td><td></td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td>10</td><td></td><td>25</td><td></td><td>20</td><td></td><td>35</td><td></td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>20</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>Aゾーン小計</td><td></td><td>200</td><td></td> <td>Bゾーン小計</td><td></td><td>150</td><td></td> <td>Cゾーン小計</td><td></td><td>150</td><td></td> </tr> </table> 合計得点 点/650点	Aゾーン				Bゾーン				Cゾーン				番号	記号	得点	小計	番号	記号	得点	小計	番号	記号	得点	小計	1		10		16		5		26		10		2		10		17		20		27		20		3		20		18		10		28		10		4		10		19		10		29		30		5		20		20		20		30		30		6		30		21		5		31		5		7		10		22		30		32		10		8		10		23		10		33		20		9		20		24		20		34		10		10		10		25		20		35		5		11		10										12		20										13		5										14		10										15		5										Aゾーン小計		200		Bゾーン小計		150		Cゾーン小計		150
Aゾーン				Bゾーン				Cゾーン																																																																																																																																																																																																																	
番号	記号	得点	小計	番号	記号	得点	小計	番号	記号	得点	小計																																																																																																																																																																																																														
1		10		16		5		26		10																																																																																																																																																																																																															
2		10		17		20		27		20																																																																																																																																																																																																															
3		20		18		10		28		10																																																																																																																																																																																																															
4		10		19		10		29		30																																																																																																																																																																																																															
5		20		20		20		30		30																																																																																																																																																																																																															
6		30		21		5		31		5																																																																																																																																																																																																															
7		10		22		30		32		10																																																																																																																																																																																																															
8		10		23		10		33		20																																																																																																																																																																																																															
9		20		24		20		34		10																																																																																																																																																																																																															
10		10		25		20		35		5																																																																																																																																																																																																															
11		10																																																																																																																																																																																																																							
12		20																																																																																																																																																																																																																							
13		5																																																																																																																																																																																																																							
14		10																																																																																																																																																																																																																							
15		5																																																																																																																																																																																																																							
Aゾーン小計		200		Bゾーン小計		150		Cゾーン小計		150																																																																																																																																																																																																															

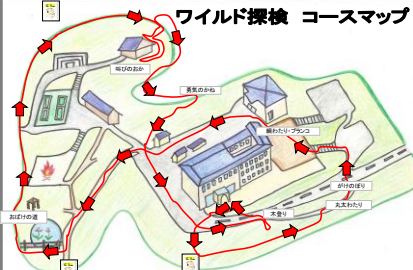
No.	104	日本一周の旅			
概要	グループごとに施設内の自然の中を歩き、設置されている木札のポイントを見つけていく。				
内容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	小3以上	時期	通年	
	場所	敷地内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○ 仲間と協力してポイントを探し当てることで、協力する心や思いやりの心を育てる。 ○ 森の草花を見たり生き物を探して歩いたりすることで、自然への気づきを促し、興味や関心を高める。				
準備	施設から貸出	＜引率者に＞ トランシーバー、敷地図 ＜各グループに＞ 解答用紙、敷地図、バインダー、腕時計、筆記用具			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)、虫除けスプレー			
	確認事項	・グループ(1グループ5～7人程度)を編成する。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認をする。 ・制限時間は60～90分とし、団体の事情や参加者の実態等により設定することができる。 ・子どもたちだけのグループで活動する場合は、小学校高学年以上が望ましい。			

	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の立ち場所や緊急時の連絡方法(トランシーバーの使い方)を確認する。 ○答え合わせの進め方を確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	＜職員による説明＞ ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照)	○コース以外のところは通らない。 ○山道も歩くので、ヘビやスズメバチなどの危険生物には注意する。
展開	○全グループ一斉に出発する。 ○敷地図を手がかりに施設内に設置されている木札を見つけていく。 ○木札を見つけたら、そこ(木札)に書かれているキーワードを解答用紙に記入する。(ポイントは全部で50個) ○設定時間内にスタート地点に戻るよう気をつける。 ○全グループがゴールした後、問題の答え合わせと得点計算を行う。 ○得点は、探し出したポイントの数だけでなく、「ビンゴポイント」「都道府県ポイント」「旅行ポイント」「ボーナスポイント」「時間減点」等がある。 ○ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。 敷地図	○引率者は立ち位置につき、無線のつながり具合を確認する。 ○トランシーバーは、他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、活動中は立ち位置、その周辺での安全監視を行う。 ※職員は巡回を行う。 解答用紙 ビンゴポイント

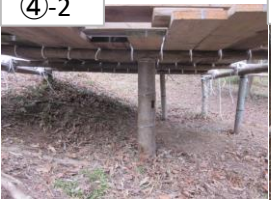
No.	105	クレヨン探検			
概 要	絵カードのコース図(写真)に従って施設敷地内を歩き、ポストに入っているシールを集めていく。				
内 容	人数(人)	～50人	時間	1～1.5時間	
	対象	幼児・小学校低学年	時期	通年	
	場所	敷地内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による安全管理と職員による巡回			
ねらい	○ 友だちと協力し、仲良く活動を楽しむ。 ○ 絵カードをもとにポストを探し当てる。				
準 備	施設から貸出	＜引率者に＞ トランシーバー ＜各グループに＞ 絵カード、シールカード、ストラップ			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)			
	確認事項	・グループ(1グループ5人程度)を編成する。(引率者の人数による) ・原則1グループに1名の引率者がつき、安全に配慮する。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認をする。 ・対象に合わせて各ポストにクイズ等を準備することもできる。その場合、クイズ等の準備は団体で行う。			

	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の動きや緊急時の連絡方法(トランシーバーの使い方)を確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時はコースの状況などを考慮の上、実施判断をする。
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照)	○コース以外のところは通らない。 ○(時期によっては)ハチ、ヘビに注意する。
展 開	○各グループが一定の間隔をあけて出発する。 ○絵カードのコース図に従いながら、ポストを見つけて歩く。 ○ポストを見つけたら、ポスト内にあるシールを取り出し、各自がシールカードに貼る。(ポストは全部で7つ) ○全グループがゴール後、ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。 絵カード(一部)  シールカード例 	○引率者は立ち位置につき、トランシーバーのつながり具合を確認する。ただし幼児の場合、引率者は各グループに同行する方が望ましい。 ○活動中は回る速さを競うことはなく、みんなで活動を楽しむことに主眼をおきながら見守る。 ○トランシーバーは他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、子どもと一緒に歩きながら安全を確認する。 ※職員は巡回を行う。 絵カード たんけんマップ 

No.	106	ワイルド探検				
概 要	絵カードのコース図(写真)に従って施設敷地内を歩き、シールを集めていく。それに加えて、途中で綱渡りや木登りなどにもチャレンジする。					
内 容	人数(人)	～50人	時間	1.5～2時間		
	対象	幼児・小学校低学年	時期	通年		
	場所	敷地内				
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ				
	安全管理	引率者による監視と職員による巡回				
ねらい	○ 友だちと協力し、仲良く活動を楽しむ。 ○ 絵カードをもとにポイントを探し当てる。 ○ 最後まであきらめずに探検にチャレンジする。					
準 備	施設から貸出	<引率者に> トランシーバー、探検用地図 <各グループに> 絵カード、シールカード、ストラップ				
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)、虫除けスプレー				
	確認事項	・グループ(1グループ5人程度)を編成する。(引率者の人数による) ・原則1グループに1名の引率者がつき、安全に配慮する。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認をする。 ・対象に合わせて各ポイントにクイズ等を準備することもできる。その場合、クイズ等の準備は団体で行う。				

	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の動きや各ポイントでの課題、緊急時の連絡方法(トランシーバーの使い方)について確認する。	○開始10分前に会場で打ち合わせを行う。 ○荒天時はコースの状況などを考慮の上、実施判断をする。
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照)	○コース以外のところは通らない。 ○(時期によっては)ハチ、ヘビに注意する。
展 開	○各グループが一定の間隔をあけて出発する。 一定の間隔とは：最初のポイントを通過後、次のグループが出発。 ○絵カードのコース図に従いながら、ポイントを見つけて歩く。 ○ポイントを見つけたら、その場に設置されている課題にチャレンジする。 ○課題をやり遂げることができたら、置いてあるケースからシールを取り出し、各自がシールカードに貼る。(ポイントは全部で6つ) ○全グループがゴール後、ふり返りや感想発表、まとめの話などを行う。 ○片付けをする。 ワイルド探検 活動紹介 (例) 綱わたり ブランコ  	○引率者は立ち位置につき、トランシーバーのつながり具合を確認する。ただし幼児の場合、引率者は各グループに同行する方が望ましい。 ○各課題の達成度(シールの取得)については参加者の実態に応じて団体で定める。 ○活動中は回る速さを競うことはなく、みんなで活動を楽しむことに主眼をおきながら見守る。 ○トランシーバーは他団体の活動と併用することもあるので、使用については緊急連絡のみとする。 ○引率者は、子どもと一緒に歩きながら安全を確認する。 ※職員は巡回を行う。 がけのぼり  木登り～はしご渡り 

No.	107	やぐらづくり			
概 要	ハデ木、平板、ロープを使い、やぐらを組んで作る。				
内 容	人数(人)	4～40人	時間	3時間	
	対象	小3以上	時期	春～秋	
	場所	レイクパーク(玄関前の林)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	引率者と職員による監視			
ねらい	○ 協力し合って活動することの大切さを知る。 ○ 自然のものを使って、物を作る楽しさを味わう。 ○ 作業時の危険について予測し、回避する力を身につける。				
準 備	施設から貸出	ハデ木、平板、ロープ、(孟宗竹)			
	団体で準備	活動しやすい服、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒、雨具(カッパ)、軍手、虫除け			
	確認事項	・1基につき6～8人程度でつくると活動がスムーズに行える。 ・安全上、必ずサン・レイク職員による指導の下、作業を進める。 ・完成したやぐらの上で野外弁当を食べることもできる。 (その場合、プラス1時間程度の時間が必要)			

	内 容	留意事項
活動前	○実施までに事務室で打ち合わせを行う。 (実施の判断、ねらいの確認、集合場所や集合時刻の確認)	○荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	＜職員による説明＞ ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○ロープの結び方(本結び)の練習をする。	○(時期によっては)ハチ、ヘビ、毛虫に注意する。 ○ハデ木や平板は二人で、安全に運ぶ。
展 開	○やぐらを作る場所を相談して決定する。 ○協力してハデ木、平板を運ぶ。 ○説明を聞く。(ハデ木の結び方) ①柱とハデ木を結ぶ。②ハデ木とハデ木を結ぶ。(角結び) ○長さを考えて平板を置く。 ○説明を聞く。(平板の結び方) ③平板をのせる。④平板をロープで結ぶ。 ○完成したやぐらにのってくつろぐ。(写真を撮る) ○片付け ・準備と逆の手順で片付ける。 ①  ②  ③  ④-1  ④-2  ④-3 	○打撲、指詰めなどのけがが予想されるので、周囲に十分注意する。 ○道路を横断する時に、車に注意する。 ○引率者、担当者は、安全に活動ができるよう十分に注意する。

No.	108	一畑薬師ハイキング				
概 要	サン・レイク周辺の自然を感じながら、標高300mの一畑寺(いちばたじ)を目指して歩いていく。					
内 容	人数(人)	～200人	時間	3～4時間		
	対象	幼児～	時期	春～秋		
	場所	サン・レイク ⇄ 一畑薬師				
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ 職員による直接指導				
	安全管理	引率者と担当職員による監視				
ねらい	○ 歩き続けることによって、心身の鍛錬を図る。 ○ 自然とのふれあいにより動植物への愛護の心を育てる。 ○ 励まし合いながら登山することで、協力する心、思いやりの心を育てる。					
準 備	施設から貸出	トランシーパー 地図				
	団体で準備	活動しやすい服装、運動靴、リュック、タオル、帽子、水筒、カップ(雨天時)、あめ等(糖分・塩分補給用:必要であれば)、虫除け				
	確認事項	コースを決める(①一宝寺コース:前半は道路、後半に山道を歩く②石段コース:道路を歩き最後に1270段の石段を上がる③大洪山コース:一畑薬師を登山口とし、徒歩1時間程度で往復できる)				

	内 容	留意事項
活動前	コースの選択・トランシーバー使用の確認 (利用する場合)バス迎えの時間確認 (実施の場合)坐禅の時間・受付確認 (利用の場合)野外弁当の受け取り・場所・時間確認	・荒天時は、コースや参加者の状況等を考慮し、相談の上、団体が実施の判断をする。
活動の説明	出発前にトイレを済ませておく。途中にはない。 ハチ・ヘビなどの生物に注意(近づかない、攻撃しない、大声を出さない等) 道路を歩く場合は右側(または歩道)を1列(または2列)で通行する。 一畑寺の敷地内に入ったら参拝客がいるので静かに過ごす。	・トランシーバーは緊急時のみの使用に限る。 ・緊急時は引率者や職員に連絡をする。
展 開	(必要があれば)準備体操を行う。 トイレの確認をして出発する。途中にはない。 <行き> ①一宝寺コース:片道約5キロ、集会所からは約2.5キロ 山道に入るまでは道路を歩く。 山道に入る前(集会所付近)で水分補給をし、山道へ入っていく。 山道の間でも休憩・水分補給の時間をとる。 山道が終わった後、道路に出る時飛び出し注意。 一畑寺へ上がっていく。 大駐車場へ到着。本堂へ。 ②石段コース:片道約4.5キロ サン・レイク坂下の道路を歩いていく。 途中で水分補給等しながら石段下まで行く。 石段を上る前に水分補給をし、登っていく。 ※雨の翌日などは滑りやすいので要注意。 本堂へ到着。 ③大洪山コース:片道約1.0キロ 一畑薬師を登山口とする。 未就学児でも無理のないコースである。 途中で休憩・水分補給をしながら登っていく。 <帰り> それぞれのコースを下っていく。 ※行きとは別のコースでも良い。 <ふりかえり> サン・レイク～一畑寺の自然、お寺の雰囲気、途中での会話等感じた事を発表する。 歩ききった事への評価など参加者に合わせて話をしたり、感想を発表したりする。 <帰所後> サン・レイク事務室への報告・物品返却をする。	・適宜、休憩、水分補給を行う。 ・引率者は、一緒に歩きながら安全管理を行う。 ・当日、前日までの雨の状況により、ぬかるんでいたたり、滑りやすかったりする場所があるので注意する。 ・石段はコケがついており滑りやすいので注意する。 ・カーブが多く見通しが悪いところもあるので車には十分注意する。 ・迎えのバスを利用する場合は、迎えの時刻を設定しているが、他団体のプログラムでの運行との兼ね合いで前後することがあるので、職員の指示に従う。

No.	110	宍道湖岸ウォーク				
概要	サン・レイクから宍道湖グリーンパークへ歩いていき、四季の自然を感じたり野鳥を観察したりする。					
内容	人数(人)	～80人	時間	2～3時間		
	対象	どなたでも	時期	春～秋		
	場所	サン・レイク～宍道湖岸～グリーンパーク				
	指導形態	自主活動・職員による事前の説明のみ				職員による直接指導
	安全管理	引率者の監視				
ねらい	○ 宍道湖岸の観察を通して、宍道湖周辺の自然のよさを実感し、環境保全への意識とともにふるさと島根への愛着を高める。					
準備	施設から貸出	トランシーバー 双眼鏡 宍道湖ウォークマップ				
	団体で準備	活動しやすい服装、運動靴、タオル、帽子、カップ(雨天時)、飲み物、あめ等(糖分・塩分補給用:必要であれば)				
	確認事項	グリーンパーク、ゴビウス、湖遊館を利用したい場合は、その旨を事前に職員に伝えておく。職員が連絡・申請を行う。				

	内 容	留意事項
活動前	トランシーバー使用の確認 (利用する場合)バス迎いの時間確認	・荒天時は、相談の上、団体が実施を判断する。 ・トランシーバーの使用は、緊急時のみ。
活動の説明	観察のマナー(大声を出さない・野鳥へ近づきすぎないなど)等も事前に指導しておく。 双眼鏡等の器具の取り扱いについての説明をする。 グループを編成しての活動可。	・事前にトイレは済ませておく。途中にはない。 ・湖岸コースを外れ、斜面・法面・湖岸・用水路等へ下りないようにする。 ・双眼鏡の取り扱いの事前指導をする。
展開	エントランスで概要について説明を受けた後、徒歩で宍道湖岸へ移動する。 マップを見ながら進み、双眼鏡も使用しながら自然観察を行う。 グリーンパークで野鳥観察を行うこともできる。(要事前連絡) ゴビウス見学を行うこともできる。(要事前申請) 時期によっては湖遊館でスケート利用ができる。(要事前申請) 帰りは、来た道に戻る。 バスでサン・レイクへ戻ることも可能。 宍道湖岸ウォークマップ あゆみ通りに歩くと自然の恵みを感じたり、景色を堪能したりしながらグリーンパークまで歩けます。(鳥の観察には双眼鏡を使いましょう) 	・マップの①までは、歩道を通るが、431号線をくぐる①～②は道が細く、車も通るので、十分注意する。431号線をくぐってすぐ左に折れ(②)、湖岸コース(宍道湖湖北自転車道)へ入り、グリーンパークへ(⑧)。 ・湖岸コースを外れ、斜面・法面・宍道湖等へ下りないようにする。 ・引率者は、安全に十分配慮する。 ・緊急時は、事務室に連絡をする。 ・迎いのバスを利用する場合は、迎いの時刻を設定しているが、他団体のプログラムでの運行との兼ね合いで前後することがあるので、引率者はトランシーバーまたは携帯電話で確実に連絡が取れるようにしておく。 ・全員がサン・レイクに戻ったら、事務室に報告する。

No.	111	サイクリング				
概 要		自転車に乗ってサン・レイク周辺の自然を感じる。				
内 容	人数(人)	～60人	時間	3時間		
	対象	身長115cm以上	時期	春～秋		
	場所	サン・レイク～一畑薬師・宍道湖岸など				
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ 職員による直接指導				
	安全管理	引率者(と担当職員)による監視				
ねらい		○自転車をこぎ続けることによって、心身の鍛錬を図る。 ○自然とのふれあいにより動植物への愛護の心を育てる。 ○励まし合いながら活動することで、協力する心、思いやりの心を育てる。 ○交通規則を守りながらサイクリングをすることで、交通安全に対する意識を深める。				
準 備	施設から貸出	トランシーバー、地図 自転車(26インチ:40+10, 24インチ:10, 22インチ:6) ヘルメット, サポーター				
	団体で準備	活動しやすい服装, 運動靴, リュック, タオル, 帽子, カッパ(雨天時), 飲み物, あめ等(糖分・塩分補給用:必要であれば)				
	確認事項	コースを決める。一畑薬師や湖岸コースなど、その他団体のねらいに応じて相談する。 近隣の連携施設を利用したい場合は、事前に職員に相談。				

	内 容	留意事項
活動前	コースの選択・トランシーバー使用の確認 (実施の場合)坐禅の時間・受付確認 (利用する場合)見学時間の確認<ゴビウス・グリーンパーク> (利用の場合)野外弁当の受け取り・場所・時間確認	・荒天時は、相談の上、団体が実施を判断する。 ・トランシーバーの使用は、緊急時のみ。 ・事前にトイレは済ませておく。
活動の説明	<準備> ・自転車サドル調整、ヘルメット調整 ・安全な走行について話を聞く ・サポーターの装着	・荒天時は、相談の上、団体が実施を判断する。 ・トランシーバーの使用は、緊急時のみ。 ・事前にトイレは済ませておく。 ・交通ルールを守る。 ・自転車を停めておくときは、決められた場所にきちんと整列して停める。
展 開	<練習> グラウンドで変速機の使い方を練習する。 <活動> トイレなどを済ませて出発する。 [一畑寺石段コース] サン・レイクから石段下まで行き、石段を歩いて登り、一畑寺を見学後、石段を下り、帰る。一畑寺では、事前予約をすれば、坐禅などができる。 [一畑寺旧有料道路コース] サン・レイクから大きな道を通り、旧有料道路を上がっていく。坂が急なので、体力がいる。一畑寺を見学することも可能。事前予約すれば坐禅も可。 [宍道湖畔コース] サン・レイクを出発し、431号線沿いを西に向かう。途中旧道に入り、431号の下をくぐるとすぐに、宍道湖湖畔沿いの自転車道に入る。約2km進むと、グリーンパーク、湖遊館、ゴビウス等ある宍道湖公園に到着する。(周辺施設を利用する場合は事前に相談)	

No.	109	本宮山ハイキング			
概 要	標高260mの本宮山(ほんぐうざん)を目指して途中で自然を散策したり、まわりの山々や宍道湖を眺めたりしながらハイキングする。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2～4時間	
	対象	小1以上	時期	春～秋	
	場所	本宮山(松江市上大野町)			
	指導形態	自主活動(打合せ有り) ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○ 自然とのふれあいにより動植物への興味や関心を高める。 ○ 励まし合いながら登山することで、最後まで粘り強く取り組む心を育てる。 ○ 歩き続けることによって、心身の鍛練を図る。				
準 備	施設から貸出	トランシーバー 地図			
	団体で準備	活動しやすい服装、運動靴、リュック、タオル、帽子、カッパ(雨天時)、虫除け飲み物、あめ等(糖分・塩分補給用:必要であれば)			
	確認事項	コースを選択する。①普通コース:2時間30分②短いコース:1時間40分③長いコース:4時間 ※コースの取り方はこれ以外もあり、なぎさ公園での活動との組み合わせも可能。			

	内 容	留意事項
活動前	コースの選択・無線使用の確認 (利用する場合)バス・電車の時間確認 (利用の場合)野外弁当の受け取り・場所・時間確認 (利用する場合)トイレの使用の申込み	
活動の説明	出発前にトイレを済ませておく。 道路を歩く場合は右側(または歩道)を1列(または2列)で通行する。	ハチ・ヘビなどの生物に注意(近づかない、攻撃しない、大声を出さない等)
展 開	(必要があれば)準備体操を行う。 トイレの確認をして出発する。 ①:バス→大野側から徒歩で上る→山頂→秋鹿側の下って多田神社からバスで帰所 ②:バス→秋鹿側から川島家から徒歩→山頂→川島家まで下りバスで帰所 ③:電車→津ノ森駅→大野公民館経由→山頂→多田神社からバスで帰所 	

No.	112	磯観察			
概 要	磯の生き物を見つけ、観察する。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	3～4時間	
	対象	どなたでも	時期	春～秋	
	場所	坂浦海岸			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○海辺にいる生物に興味を持つ。 ○海での安全な活動のために、気を付けなくてはならないことを知る。 ○自然や環境を大切にすることを育む。				
準 備	施設から貸出	ライフジャケット(子供用・大人用)、バケツ、手網、プラスチックケース、箱メガネ レスキューチューブ、トランシーバー、白バスケツ、雷探知機、水タンク、ブルーシート、救急セット、熱中症セット、ゴムシート			
	団体で準備	ぬれてもよい服、ぬれてもよい靴(サンダル、クロックスは×)、買い物袋、防寒着(風よけになるもの) タオル、帽子、日焼け止め、飲み物、あめ等(糖分・塩分補給用:必要であれば)			
	確認事項	出発する前に着替えを浴室の脱衣所に置いておく。			

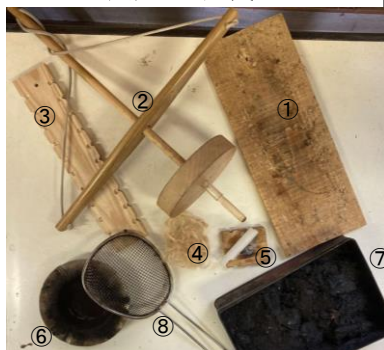
	内 容	留意事項
活 動 前	実施の可否を確認する。 指導スタッフと打合せをする。 シャワー室、脱衣所、研修室等で着替えを済ましておく。 スタッフは、タライに水をためておく。(必要数)	・天候や磯の状況、参加者の状況等を考慮し、相談の上、実施の判断をする。 ・着替えを脱衣所に準備しておく。 ・持ち物を確認する。
展 開	○ロビーに集合(ライフジャケットを着用する) ①バスで坂浦に移動する。(20分) バスの中で、安全面やマナーについての注意をする。 ・危険な生き物(くらげ、うに、ごんずい、オコゼなど) ・危険な行動(走る、跳ぶ、海に背を向ける、指定した範囲の外には行かないなど) ・採ってはいけない生き物(ウニ類、サザエ、あわび) (箱メガネ・手網はバスから降りてすぐに個人に渡す。) ②磯に到着後、トイレの場所を確認する。 ③磯観察をする前に、次のことについて指導する。 ・活動する範囲を確認する。 ・生き物をむやみに傷つけない。 ・生き物を大量に捕獲しない。 ・生き物の住み家にお邪魔するという気持ちを持って活動する。 ・観察後、捕獲した生き物はその場所に返す。 ④ライフジャケットを付けたまま磯観察をする。 ・バディシステムを用いて活動し、終了時には必ずバディの存在を確認する。 ⑤捕獲した生き物について、講師の話を聞く。 ⑥生き物を元の場所に放す。(バスに乗る前に箱メガネ・手網を返す。) ⑦ライフジャケットのままバスに乗ってサン・レイクに帰る。 ⑧到着後、ライフジャケットや使った道具を洗って干す。 ⑨着替えをする。(浴室の利用はシャワーのみ可。)	(職員は、必要な道具を軽トラックまたはワゴンで先に運び、荷物置き場をセッティングしておく。) ・監視体制の確認をする。立ち位置等。 ・水分補給、休憩を適宜行う。 ・引率者は安全について十分注意する。 ・活動終了後、人員点検を行い、体調についても確認する。 湖面活動とバスの輸送が重なった場、送迎時刻を調整する。 磯 8:40集合 8:50発 10:50迎 12:40集合 12:50発 14:50迎 湖面 9:30発 11:20迎 13:30発 15:20迎

No.	114	火起こし			
概 要	○マイギリ式発火法により、グループで協力して火を起こす。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	1～1.5時間	
	対象	小4以上	時期	通年	
	場所	屋外創作棟、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○ 先人の知恵に学び、生きるための工夫に気づく。 ○ グループで協力して作業を進めることにより、連帯感を深める。				
準 備	施設から貸出	火きり杵、火きり臼、土台板、火口(ほくち)、麻紐、灰皿、金網、ろうそく、ろうそく台、ランタン			
	団体で準備	活動しやすい服、帽子、軍手 ※ 夏期は タオル、水筒			
	確認事項	○起こした火をランタンに移して保管することで、その後の活動(炊飯活動やファイヤー(キャンドル)の集いで利用することもできる。 ○ファイヤースターターを使っでの火起こし体験活動も可能である。(事前に要相談)			

	内 容	留意事項
活動前	○実施までに事務室で打ち合わせを行う。 (ねらいの確認、人数や班の数、集合場所や集合時刻の確認)	
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○マイギリ式の発火法についての説明を聞く。 ※火きり杵の回転を止めずに交代する方法を知る。 ○注意事項についての説明を聞く。	・軍手をはめて活動をする。 ・火傷には十分注意する。
展 開	○グループ(4～6人)ごとに道具の準備をする。 ○マイギリ式発火法で火種を作る。 ・火きり杵を火きり臼の穴に合わせ、回転させて起こる摩擦により火種をつくる。 ・灰皿に入れた火口の上に、火きり杵から火種を採る。 ○火種を炎にする。 ・やさしく息を吹きかけ、火口に火種を広げる。煙が出はじめたら、細くばらした麻紐を適量火種の上にのせ、息で飛ばないように金網をかぶせ、横から細く長く息を吹きかける。炎がついたら金網をすぐに外し、火をろうそくに移す。ろうそくから細竹を使ってランタンに火を移し、保管する。 ・時間がある限り、交代しながら火起こしをする。 ○片付けと清掃をする。	○活動は役割分担をすることで協力を意識できるようにする。 ○火起こし器の先(火きり杵)は根元まで使うと抜けなくなるので、様子を見て2cmくらいになったら交換する。 ○グループの中で交代しながら活動し、全員が火起こしを体験する。 ・特に火種を広げるとき、炎を起こすときは、火床が飛び散る可能性があるので十分注意する。 ・引率者は安全に十分注意する。

火起こし道具一式

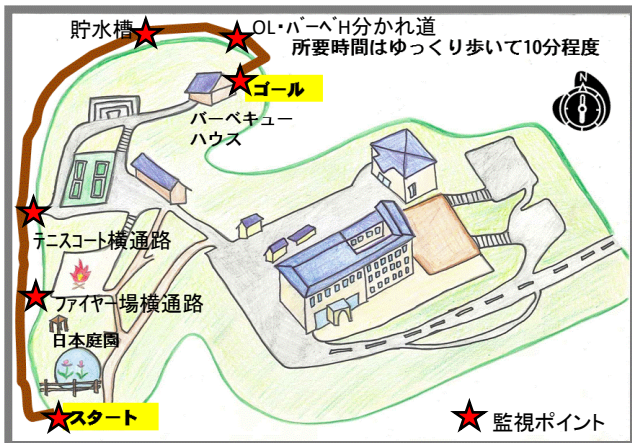
- ①火きり臼
- ②火きり杵
- ③土台板
- ④麻紐
- ⑤ろうそく、ろうそく台
- ⑥灰皿
- ⑦火口(ほくち)
- ⑧金網



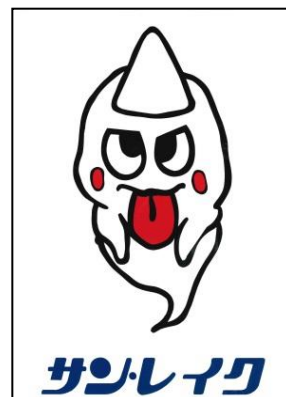
火口(ほくち)
がまの穂をほぐして炭にしたもの



No.	115	肝だめし			
概 要	〇暗い山道を歩き、肝だめしをする。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	30分 ～ 1時間程度	
	対象	小1以上	時期	春 ～ 秋	
	場所	肝だめしコース			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	〇 勇気を出して夜の山道を歩くことができる。 〇 みんなで励まし合いながら活動することでお互いの信頼感を深める。				
準 備	施設から貸出	・肝だめし用かぶり物、衣装 ・トランシーバー ・CDデッキ ・懐中電灯 ・肝だめしコース図			
	団体で準備	・活動しやすい服装（長袖、長ズボンが望ましい） ・運動靴 ・虫除けスプレー ・懐中電灯 ・雨具(カッパ) ・防寒着			
	確認事項	・ 引率者は、担当職員と相談し、肝試し当日の16時30分頃までにコースの下見をしておく。できない場合は、16時30分頃から、引率者と担当職員で下見をする。あわせて、必要物品の貸出等を行う。			

	内 容	留意事項
活動前	・16時30分にエントランスに集合し、コース、注意事項等、職員の説明を受ける。(引率者のみでも可) ・引率者は担当職員と相談をし、下見をする。必要物品の貸出を行う。	・荒天時は、コースの状況も考慮し、相談の上、実施判断をする。
展 開	<団体担当者による説明> ・流れについて。 ・コースの確認。	・お化けマークに従って歩けばよいことを伝える。また安全上意図的に走ることがないように注意喚起する。 ・滑りやすいところがあったり木の根っこや段差があったりするところは十分に注意する。 ・貯水槽のところは左に曲がって東小学校へ行かないように注意する。 ・ゴール後の動きについても確認する。
	〇(必要に応じて)雰囲気の出る話を聞く。 〇日本庭園前をスタートする。 〇バーベキューハウス裏にゴール。 肝だめしコース 	・複数のグループで活動する場合は、その場の様子で間隔をあげながら、順番に出発するようにする。 ・引率者は、人数に応じて監視体制を組み、安全に十分注意する。 監視ポイント★スタート(日本庭園前)★ファイヤー場横通路★テニスコート横通路★東小分かれ道(貯水槽)★OL・パーベH分かれ道★ゴール(BBQハウス)

肝だめしコースの表



No.	116	フライングディスクゴルフ(FDG)			
概要	ゴルフのボールの代わりにフライングディスクを使用し、バスケット型の専用ゴールに、何投で投げ入れることができるかを競う。				
内容	人数(人)	～40人	時間	2～3時間	
	対象	小1以上	時期	通年	
	場所	敷地内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視と職員による巡回			
ねらい	○ 心身の健康・体力の保持・増進を図る。 ○ ルールを守ったり(工夫したり)、チームで作戦を考えたりしてゲームを行いながら、仲間との交流を深める。 ○ コースをまわりながら自然散策をし、サン・レイクの自然に親しむ。				
準備	施設から貸出	＜指導者に＞ トランシーバー ＜研修者に＞ フライングディスク、ゴール(常設) ＜各グループに＞ スコア用紙、バインダー、筆記用具			
	団体で準備	活動しやすい服(長袖・長ズボンが望ましい)、履き慣れた靴、帽子、タオル、水筒 雨具(カッパ)、虫除けスプレー(季節に応じて)			
	確認事項	・グループ(1グループ4～5人程度)を編成する。 ・指導担当スタッフと実施方法や監視体制等について事前に打合せを行う。			

	内 容	留意事項
活動前	○進行・時間の設定・引率者の役割や緊急時の連絡方法(無線の使い方)を確認する。	○開始10分前に集合場所で打ち合わせを行う。 ○荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○注意事項についての説明を聞く。 ○必要な物品を受け取る。(準備物参照) ○スローイングの練習をする。	○スローイングの練習は、グラウンドや体育館など、広い場所で行う。 ○コース以外は立ち入らないが、ディスクがそれた場合は安全に十分注意して回収する。回収できない場合は無理に取らず、担当職員に伝える。
展開	○グループ毎に一斉にスタートする。 ○9ホール回り終えたら、最初に説明を聞いた部屋に戻って待つ。 ○全グループが部屋に戻ったら、それぞれのスコアを確認し、成績発表をする。 ○ふり返りや感想発表, まとめの話などを行う。 ○片付けをする。 ○道具を事務室に返却する。	○各グループが最初に行くホールを分かれてスタートすることで、混雑を防ぐ。 ○活動中は、引率者が巡回しながら安全監視を行う。 ○成績発表では、一人一人のスコアだけでなく、グループ毎の総合スコアで行うこともできる。 ○まとめの話ではスコアの良し悪しだけでなく、一人一人のがんばりを評価する。 ※職員は巡回を行う。

フライングディスクゴルフ サン・レイクコース

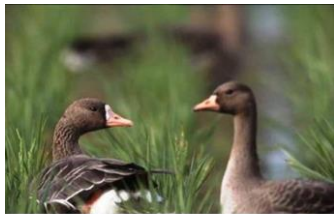
・各グループのスタート地点は、スタート地点の旗に移動し、スタートの表示のあるところからスタートします。
 ・コースは最長の旗に移動し、スタートの表示のあるところからスタートします。
 ・スタートの表示のあるところからスタートします。
 ・スタートの表示のあるところからスタートします。
 ・スタートの表示のあるところからスタートします。

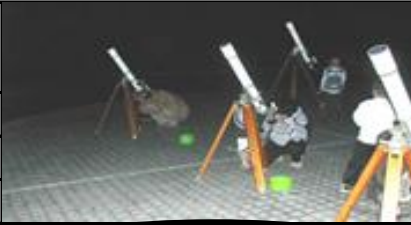
コース開始 スタート: S → ★: ゴール

グループ名【 】

ホールNO.	距離 (m)	PAR	メンバー(名前)			
①	80	5				
②	35	4				
③	40	4				
④	30	3				
⑤	75	5				
⑥	45	4				
⑦	35	4				
⑧	70	3				
⑨	30	3				
合計	35					



No.	113	モーニングフライト・サンセットフライト			
概要	早朝や夕方に宍道湖岸に出かけ、双眼鏡で飛来する冬鳥を観察する。				
内容	人数(人)	～40人	時間	1～1.5時間	
	対象	フリー	時期	11月～3月	
	場所	斐伊川河口付近			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○ 冬鳥(主にマガン・白鳥)の観察を通して、宍道湖周辺の自然のよさを実感し、環境保全への意識とともにふるさと島根への愛着を高める。				
準備	施設から貸出	双眼鏡、フィールドスコープ、三脚、資料「ぼくたち、わたしたちの宍道湖・中海とラムサール条約」(パンフレット)、「宍道湖・中海探鳥マップ」(リーフレット)、「野鳥カード」(写真) ※必要に応じて			
	団体で準備	活動しやすい服、防寒具			
	確認事項	・ 荒天時でもバスの車中や雨具を着用して観察を実施することができる。 ・ 効果的な活動になるために、上記のパンフレット等を使用し、ラムサール条約などについて事前学習を実施することができる。(本所での事前学習の実施については要相談) ・ 研修者の安全管理については団体の責任で行い、話の聞き方や観察のマナー(大声を出さない・野鳥へ近づきすぎないなど)等も事前に打合せをする。 ・ 鳥インフルエンザの情報に留意し、落ちていた鳥の羽は拾わない。ふんを踏まないように注意する。			
内 容					
活動前	○ 事前に日の出日の入りの時間を調べ、活動時間を決定する。(モーニングフライトは早朝(日の出)、サンセットフライトは夕方(日の入り)に行う。				○ 荒天時は相談の上、実施判断をする。
活動の説明	＜職員による説明＞ ○ めあてや活動の進め方の説明を聞く。 ○ 注意事項についての説明を聞く。 ○ 必要な物品を受け取る。(準備物参照)				○ 双眼鏡等の器具の取り扱いについて、十分に注意する。
展開	○ サン・レイクバスで斐伊川河口へ移動する。(所要時間は15分程度) ○ 野鳥観察(主にマガン・白鳥)をする。 ○ バスでサン・レイクへ帰る。(車中で振り返りをする。) ○ 貸し出し物品を回収する。				○ 職員・講師は「フィールドマナー」について話をする。 や…野外活動、無理なく楽しく さ…採集は控えて自然はそのままにし…静かに、そ〜と い…一本道、道からはずれないで き…気を付けよう、写真、給餌、 人への迷惑 も…もって帰ろう、思い出とゴミ ち…近づかないで、野鳥の巣 ○ 振り返りは、観察を通して発見したことや驚いたこと、感じたことを発表し合う。 ○ 引率者、職員は安全について十分注意する。
					
	＜マガン＞		＜コハクチョウ＞		
展開					
	＜コハクチョウのフライト＞		＜マガンのフライト＞		

No.	117	天体観察			
概要	○天体望遠鏡を使い、月や星などを観察する。荒天時は、画像や映像を見ながら天体についての話を聞く。				
内容	人数(人)	～40人	時間	1～2時間	
	対象	小4以上	時期	通年	
	場所	研修室、屋外			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 講師による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○ 実際に星空を見ることによって星への関心を高める。 ○ 天体について見たり聞いたりすることで神秘の世界を感じる。 ○ 器具の扱いになれる。				
準備	施設から貸出	・天体望遠鏡 ・ 三脚			
	団体で準備	・寒い時期は防寒具			
	確認事項	・児童の安全管理については団体の責任で行い、話の聞き方等も事前に指導をしておく。 ・荒天時は、研修室等で、天体についての学習をする(パソコン、スライド等を利用)			

	内 容	留意事項
活動前	講師と本施設職員で天体望遠鏡等の準備をする。 	
活動の説明	<団体担当者による説明> ・あいさつ ・講師の紹介	・団体に必要に応じて説明内容を加える とよい。 ・望遠鏡の近くを走り回ったりすること ないよう、安全には十分注意する。
展開	<講師を依頼した場合> 研修室に集合 ○はじめのあいさつ ○講師紹介 ○天体望遠鏡による星の観察（荒天時は天体の講話） ○感想発表、お礼のあいさつ ○活動終了後、天体望遠鏡等器具の片づけ	・観察をして発見したことや驚いたこと、 感じたことを発表し合うとより学びを深め ることができる。

No.	はじめてのテント体験(半日デイキャンプ)				
概 要	キャンプに興味のある家族や団体がサン・レイクのキャンプ用品を使って、テント設営やニュースポーツなどのキャンプ体験をする。				
内 容	人数(人)	～50人	時間	3時間	
	対象	どなたでも	時期	4月～10月	
	場所	テント設営:木立の広場、グラウンド ニュースポーツ:グラウンド、敷地内等			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
安全管理	引率者による監視				
ねらい	○テント設営を通して器具や用具の扱い方を知り、キャンプの楽しさを味わう。 ○協力して作業を進めることにより、連帯感を深める。				
準 備	施設から貸出可	ソロテント(50)、ファミリーテント(8)、マット(50)、ライト(50)、ハンマー、折りたたみテーブル(10)、ディレクターズチェア(40)、寝袋、スリーピングマット モルック用具一式、ラダーゲッター用具一式、フライングディスク、室内用ペタンク用具一式 無線(必要に応じて)			
	団体で準備	軍手、水筒(必要に応じて)、帽子			
	確認事項	・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。 ・グループ分け(各活動のプログラム資料を参照) ・予約時に指導形態について相談する。テント設営初心者は、直接指導を基本とする。			



	内 容	留意事項																				
活動前	○テント立て、撤収以外の時間は、散策・フリータイムかニュースポーツのいずれかを選択する。 ○ニュースポーツをする場合は活動を選び、グループを分けておく。(ニュースポーツは、フライングディスクゴルフ、モルックから選択。荒天時は室内ペタンク、ラダーゲッター、モルックから選択。) ○対戦方法を考える。(ラダーゲッター、ペタンクのみ) ○引率者と緊急時の連絡方法(無線の使い方)を確認する。(フライングディスクゴルフのみ)	○フライングディスクゴルフは職員による事前の説明のみ ○ペタンク、モルックは事前説明と直接指導のどちらかを選択することができる。 ○ラダーゲッターは職員による直接指導 ○他のプログラムと組み合わせての1日研修にすることもできる。																				
活動の説明	○職員と活動の流れや貸出物品などについて打ち合わせをする。 ・活動内容の確認 ・キャンプ用品の取り扱い方 ・ニュースポーツの用具の受け取り、注意事項について ・片付けと点検	○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○ディスクやボールなどを投げるときは、周囲に注意する。正しい投げ方で、必ず投げる練習をしてから行う。																				
展 開	○以下の2つのプログラムから選択(タイムスケジュールは目安です) 午前プラン <table><tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr><tr><td>受付</td><td>テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館</td><td>・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H</td><td>テント 撤収 点検</td><td>退所 ※引き続き他のプログラムや自主活動を行ってもよい。</td></tr></table> 午後プラン <table><tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr><tr><td>※午前は別のプログラムや自主活動を行ってもよい。</td><td>受付 テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館</td><td>・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H</td><td>テント 撤収 点検</td><td>退所</td></tr></table>	9	10	11	12	13	受付	テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館	・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H	テント 撤収 点検	退所 ※引き続き他のプログラムや自主活動を行ってもよい。	13	14	15	16	17	※午前は別のプログラムや自主活動を行ってもよい。	受付 テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館	・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H	テント 撤収 点検	退所	○テントをたてる前に中身が揃っているかどうか確認する。 ○引率者は、転倒、転落などの事故がないように、安全監視を行う。 ○片づけ開始時刻を打ち合わせ、職員の指導のもとで片づけをする。 ○時間に余裕をもって点検を受けるようにする。 ☆別紙活動シートあり
	9	10	11	12	13																	
受付	テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館	・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H	テント 撤収 点検	退所 ※引き続き他のプログラムや自主活動を行ってもよい。																		
13	14	15	16	17																		
※午前は別のプログラムや自主活動を行ってもよい。	受付 テント立て 木立の広場 orグラウンド 多H 体育館	・フリータイム、散策 ・フライングディスクゴルフ ・モルック 木立の広場、敷地内等 荒)・室内ペタンク・モルック ・ラダーゲッター 多H	テント 撤収 点検	退所																		
	○時間に余裕があれば、貸し出せる用具の中から使いたいものを選んで使用してもよい。 ○活動のうち、人数により1～2つを選んで行うことができる。 ○撤収時にテントが濡れたりしめったりしている場合は、片づけ方について職員と相談する。 ○活動場所とテント、貸し出した用具の点検を受ける。																					

2. 調理活動

No.	201	野外炊飯			
概要	施設の野外炊飯場にかまどを作り、火を起こしてご飯を炊いたり、カレーや豚汁などを作ったりする。				
内容	人数(人)	10～80人	時間	3～4時間	
	対象	小5以上	時期	通年	
	場所	野外炊飯場・バーベキューハウス (荒天時は玄関横、試食・調理室)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○かまどに火を起こしたり、その火で食事を作ったりする体験を通して「作る喜び・苦労・感謝」を知る。 ○役割を分担し、協力して作りあげることで、「仲間の大切さ」を知る。 ○自ら作り、食べるという過程を通し、「食」に対する関心を高める。				
準備	施設から貸出	耐火レンガ、ブロック、鉄棒(網つき)、羽釜、鍋、圧電式ライター、新聞紙、包丁、野外炊飯セット一式(10名分×8セット)、火ばさみ、火吹き竹、うちわ、耐火手袋、じゅうのう			
	団体で準備	軍手、タオル、帽子、水筒、活動に適した服装(裾の広がりが無い長袖、長ズボンなど)・靴			
	確認事項	・火起こし体験と併せて実施することもできる。(プラス1時間:要指導) ・荒天時は、研修団体と相談の上、ロケットストーブを使い、玄関横、試食・調理室に場所を代えて実施する。(燃料費はキャンセル可能) ・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容		留意事項
活動日より前	①予約時にアレルギーの有無を確認する。 ②野外炊飯材料等申込書により、食材や燃料を注文する。		○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活動前	①食材等をリヤカーでバーベキューハウスまで運搬する。 ②屋外創作棟へ移動する。 ③野外炊飯セット、羽釜、鍋をバーベキューハウスまで運ぶ。 ④火ばさみ、じゅうのう、吹き竹、うちわ、鉄棒等の野外炊飯用具を野外炊飯場まで運ぶ。		○食材(特に野菜類)は、グループ数に応じて研修団体が包丁で切りわけける。
活動の説明	【屋外創作棟】 ①活動の流れ ②必要な道具と片付け方 ③注意事項 【野外炊飯場】 ①かまどの作り方・火の起こし方 ②片付け方 【バーベキューハウス】 ①バーベキューハウスの使い方 ②片付け方		○調理器具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。
展開	【野外炊飯場】 ①ブロックや耐火レンガを使い、かまどを作る。 ②新聞紙や小枝を用い、かまどに火を起こす。 ③火が起きたら薪を加え、羽釜でご飯を炊き、鍋でカレーを煮る。 ④できたら、炊飯場まわり又はバーベキューハウス内で食べる。 ～食事終了後～ ⑤燃え残った薪や灰などをじゅうのうを使って専用の缶に入れ、消火する。 ⑥かまどに使った耐火レンガやブロックを元の場所に返す。 ⑦かまど周辺や食べた場所などを片付け、掃除をする。 ⑧職員の点検を受ける。 ⑨野外炊飯用具等を屋外創作棟に返す。		○引率者は、けがや火傷、火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○衛生面には十分に気を付ける。 ○火を扱っている間や片付けの際は必ず軍手を着用する。必要に応じて耐火手袋を着用する。 ○羽釜・鍋は、原則バーベキューハウス外の水道を利用し、黒いすすが完全になくなるまできれいに洗う。 ○食器類はすべて洗剤できれいに洗い、数量を確認して元の場所に返す。 ○生ゴミはゴミ袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付けの際は、野外炊飯セット、羽釜、鍋は職員の点検を受けた後、屋外創作棟へ運び、もとの場所へ片付ける。

No.	202	ぐるぐるパン			
概 要	竹に生地を巻き付けて、ぐるぐるまわしながら炭火でパンを焼き上げる。				
内 容	人数(人)	10～80人	時間	3～4時間	
	対象	どなたでも	時期	通年	
	場所	試食・調理室、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○炭を使って、自分でパンを焼いて食べることで、体験の楽しさを味わう。 ○協力したり、役割分担したりしながら活動することで、「仲間の大切さ」を知る。 ○火の扱いを知り、安全に気をつけて活動する。				
準 備	施設から貸出	バーベキューコンロ大、バーベキューコンロ中、火ばさみ、うちわ、炭入れ、じゅうのう、耐火手袋、圧電式ライター、調理器具、ラップ、竹、アルミホイル			
	団体で準備	軍手、(必要に応じて、水分補給用の飲料)			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、ぐるぐるパン材料(1セット約20個分、10人分)、燃料を注文する。 (材料は、強力粉、ドライイースト、砂糖、卵、バター、塩)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせをする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用后ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	【試食・調理室】 ①生地をこねる。 ②発酵させる。(季節によるが1時間程度) ③竹にアルミホイルを巻き、伸ばした生地を巻きつける。 ④片付け ・使った調理器具を洗って片付ける。 【玄関横】 ①炭に火をつける。 ②炭火で焼きながら食べる。 ③片付け・清掃・点検 ※片付けについて ・燃え残った炭は、じゅうのうで専用の缶に入れ、水をかけて消火する。 ・コンロの残った灰、まわりのごみなどを、ほうきで掃いてきれいにする。 ・その他の使った道具を片付ける。 ④ふりかえり	○材料をグループごとに分ける作業は、人数やグループ数に応じて研修団体が行う。 ○発酵させている間は、団体で自主的な活動をしたり、館内ラリーなどのプログラムをしたりする。 ○竹に生地を巻くときは、ひも状に伸ばしてから巻く。厚いと中まで焼けないので、生地をおさえながら、薄めに巻きつけるとよい。 ○炭に火をつけるとき、竹を回すとき、炭の片付けをするときには必ず軍手をする。また、必要に応じて耐火手袋をつける。 ○引率者は、火傷や火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○ゴミは袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付け終了後に職員の点検を受ける。 ☆別紙作り方シートあり

No.	204	バウムクーヘン			
概 要	竹に生地を何度も巻き付けて、ぐるぐるまわしながら炭火でバウムクーヘンを焼き上げる。				
内 容	人数(人)	6～30人	時間	2～3時間	
	対象	どなたでも	時期	通年	
	場所	試食・調理室、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○炭を使って、自分たちでバウムクーヘンを作ることを通して、体験の楽しさを味わう。 ○役割分担しながら活動することで、協力することの大切さを知る。 ○火の扱いを知り、安全に気をつけて活動する。				
準 備	施設から貸出	バーベキューコンロ大、バーベキューコンロ中、火ばさみ、うちわ、炭入れ、じゅうのう、耐火手袋、圧電式ライター、ボウル、おたま、包丁、バット、竹			
	団体で準備	軍手、(必要に応じて、水分補給用の飲料)			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、バウムクーヘン材料(1セット6～10人分)、燃料を注文する。 (材料は、ホットケーキミックス、卵、砂糖、バター、牛乳)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせをする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	【試食・調理室】 ①生地を混ぜる。 【玄関横】 ①炭に火をつける。 ②竹を空焼きして、濡れ布巾で拭く。 ③ボウルの上で竹棒に生地を回しかけ、炭火の上で回しながら焼き色が付くまで焼く。 生地がなくなるまで③を繰り返す。 ④焼きあがったら切って食べる。 ⑤片付け・清掃・点検 ※片付けについて ・燃え残った炭は、じゅうのうで専用の缶に入れ、水をかけて消火する。 ・コンロの残った灰、まわりのごみなどを、ほうきで掃いてきれいにする。 ・ボウルやおたまなどの調理道具を洗って片付ける。 ⑥ふりかえり	○材料をグループごとに分ける作業は、人数やグループ数に応じて研修団体が行う。 ○水分を加減し、垂れにくい程度の生地を作るとよい。 ○強火で、素早く回し焼く。 ○炭に火をつけるとき、竹を回すとき、炭の片付けをするときには必ず軍手をする。また、必要に応じて耐火手袋をつける。 ○引率者は、火傷や火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○作業用の長机(貸出有)を用意するとよい。 ○ゴミは袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付け終了後に職員の点検を受ける。 ☆別紙作り方シートあり

No.	203	ぐるぐるホットケーキ			
概 要	竹に生地を巻き付けて、ぐるぐるまわしながら炭火でホットケーキを焼き上げる。				
内 容	人数(人)	6～100人	時間	2～3時間	
	対象	どなたでも	時期	通年	
	場所	試食・調理室、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○炭を使って、自分でホットケーキを焼いて食べることで、体験の楽しさを味わう。 ○役割分担しながら活動することで、協力することの大切さを知る。 ○火の扱いを知り、安全に気をつけて活動する。				
準 備	施設から貸出	バーベキューコンロ大、バーベキューコンロ中、火ばさみ、うちわ、炭入れ、じゅうのう、耐火手袋、圧電式ライター、調理器具、ラップ、竹、アルミホイル			
	団体で準備	軍手、(必要に応じて、水分補給用の飲料)			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、ぐるぐるホットケーキ材料(1セット6人分)、燃料を注文する。 (材料は、ホットケーキミックス)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせをする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	【試食・調理室】 ①生地をこねる。 ②竹にアルミホイルを巻き、伸ばした生地を巻きつける。 ③片付け ・使った調理器具を洗って片付ける。 【玄関横】 ①炭に火をつける。 ②炭火で焼きながら食べる。 ③片付け・清掃・点検 ※片付けについて ・燃え残った炭は、じゅうのうで専用の缶に入れ、水をかけて消火する。 ・コンロの残った灰、まわりのごみなどを、ほうきで掃いてきれいにする。 ・その他の使った道具を片付ける。 ④ふりかえり	○材料をグループごとに分ける作業は、人数やグループ数に応じて研修団体が行う。 ○竹に生地を巻くときは、ひも状に伸ばしてから巻く。 ○炭に火をつけるとき、竹を回すとき、炭の片付けをするときには必ず軍手を付ける。また、必要に応じて耐火手袋をつける。 ○引率者は、火傷や火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○ゴミは袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付け終了後に職員の点検を受ける。 ☆別紙作り方シートあり

No.	206	そば打ち			
概 要	そば粉から麺をつくり、調理して会食する。 食に関して関心をもち、「作る喜び・苦労・感謝」を味わう。				
内 容	人数(人)	8～40人	時間	3～4時間	
	対象	小5以上	時期	通年	
	場所	試食・調理室			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と職員による監視			
ねらい	○そばを自分たちでつくって食べるまでの活動を通して、作る体験の楽しさを味わう。 ○役割分担しながら活動することで、協力することの大切さを知る。				
準 備	施設から貸出	麺棒、まな板、打ち台、包丁、秤、ボウル、ザル、鍋、菜箸、レシピ、食器			
	団体で準備	エプロン、三角巾、マスク			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、材料を注文する。(8人以上から) (材料は、そば粉、打ち粉、中力粉、つゆ、ねぎ)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①講師・職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせをする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	①道具を準備する。 ②材料を計量し、分配する。 ③そばを打つ。 1. そば粉と中力粉を混ぜる 2. 水を加えながらこねる 3. こねる 4. のばす 5. 切る 6. ゆでる 7. 洗う・盛りつける ④配膳し、全員で会食する。 ⑤片付け・清掃・点検 ⑥ふりかえり	○材料は事前に計量しておいてもよい。 その場合は、講師と相談しながら、団体で行う。 ○道具は、うどん打ち(小麦粉)でも使用しているものがある。 ○引率者や職員は、けがや火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○片付け終了後に職員の点検を受ける。 ☆別紙作り方シートあり

No.	207	うどん打ち			
概 要	小麦粉から麺をつくり、調理して会食する。 食に関して関心をもち、「作る喜び・苦労・感謝」を味わう。				
内 容	人数(人)	8～40人	時間	3～4時間	
	対象	小5以上	時期	通年	
	場所	試食・調理室			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と職員による監視			
ねらい	○うどんを自分たちでつくって食べるまでの活動を通して、つくる体験の楽しさを味わう。 ○役割分担しながら活動することで、協力することの大切さを知る。				
準 備	施設から貸出	麺棒、まな板、打ち台、包丁、秤、ボウル、ザル、鍋、菜箸、レシピ、食器 ビニール袋(10～12号、厚さ0.03mm程度)、新聞紙、タオル			
	団体で準備	エプロン、三角巾、マスク			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、材料を注文する。(8人以上から) (材料は、強力粉、打ち粉、つゆ、ねぎ)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所 日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①講師・職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせ をする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け 方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用後ともに洗 浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを 徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	①道具を準備する。 ②材料を計量し、分配する。 ③うどんを打つ。 1. 強力粉と塩水を混ぜる 2. 塩水を加えながらこねる 3. 足踏みをして、寝かす 4. のばす 5. 切る 6. ゆでる 7. 洗う・盛りつける ④配膳し、全員で会食する。 ⑤片付け・清掃・点検 ⑥ふりかえり	○材料は事前に計量しておいてもよい。 その場合は、講師と相談しながら、団体 で行う。 ○道具は、そば打ち(そば粉)でも使用し ているものがある。 ○引率者や職員は、けがや火災事故等 がないように、安全監視を行う。 ○片付け終了後に職員の点検を受け る。 ☆別紙作り方シートあり

No.	208	石窯ピザ			
内容	ピザ生地を小麦粉からつくり、石窯で焼きあげて会食する。				
	人数(人)	6～24人	時間		3～4時間
	対象	フリー(要相談)	時期		通年
	場所	バーベキューハウス			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と職員による監視			
ねらい	○ピザを自分たちでつくって食べるまでの活動を通して、つくる体験の楽しさを味わう。 ○役割分担しながら活動することで、協力することの大切さを知る。				
準備	施設から貸出	ピザ調理用具セット一式(6皿分) ※2セット貸し出し可 火おこし道具一式(圧電式ライター、新聞紙、火ばさみ、うちわ、炭入れ、じゅうのう、耐火手袋) 掃除用具一式			
	団体で準備	タオル、軍手、マスク、エプロン、三角巾			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・職員(講師)は、ピザのつくりかた、火の管理、焼き方、片付けについての説明を行う。 ・石窯の火の管理(火起こしから消火まで)は、職員が説明をして、団体が行う。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、石窯ピザ材料(1セット6人分)、薪を注文する。 (材料は、強力粉、薄力粉、ドライイースト、塩、オリーブオイル、ピザソース、チーズ、ベーコン、玉ねぎ)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 前	①担当職員と打ち合わせをする。 (活動の流れ、役割分担、活動場所、活動班編成、道具の貸出) ②食材を食堂から受け取り、バーベキューハウスへ運ぶ。 ③屋外創作棟からピザ調理用具セット・火起こし道具一式をバーベキューハウスへ運ぶ。	○食材は、研修団体が活動班の人数に応じて、包丁で切り分けたり、分量を量って分配したりする。
活 動 の 説 明	①作業工程、活動場所、作業時間の目安。 ②安全についての留意点。 ③片付け方の留意点。 ※ 別紙「石窯ピザのつくりかた」参照	○調理用具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。
展 開	【バーベキューハウスでの活動】 ①職員から、活動全体の段取り(片付けを含む)を聞く。 ②講師から、生地のつくりかたを聞く。 ③材料を計量し、生地を作る。 ④具材を切りわけ、トッピングする。 ⑤石窯に、作ったピザを運ぶ。 【石窯での火起こし活動】 ⑥生地をこねて発酵させている間に、石窯の火を起こす。 ⑦生地ができれば、順番に焼いて、バーベキューハウス内で食べる。 ～食事終了後～ ※「片付けの手順」に従って ⑧石窯の火を消火し、石窯と石窯の周辺を掃除する。 ⑨洗い物、ゴミ捨てをする。 ⑩バーベキューハウス内を清掃する。 ⑪職員の点検を受ける。 ⑫用具等を屋外創作棟に返す。	○手洗い、消毒をして、衛生面には十分に気を付ける。 ○引率者は、けがや火傷、火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○火を扱っている間や片付けの際は必ず軍手を着用する。必要に応じて耐火手袋を着用する。 ○備品はすべて洗剤できれいに洗い、数量確認して元の場所に戻す。 ○生ゴミはゴミ袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付けの際は、ピザ調理用具セット、火起こし道具一式は職員の点検を受けた後、屋外創作棟へ運び、もとの場所へ片付ける。 ☆別紙作り方シートあり

No.	205	ぐるぐるヨーグルトパン			
概 要	竹に生地を巻き付けて、ぐるぐるまわしながら炭火でヨーグルトパンを焼き上げる。				
内 容	人数(人)	6～80人	時間	3～4時間	
	対象	どなたでも	時期	通年	
	場所	試食・調理室、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視			
ねらい	○炭を使って、自分でヨーグルトパンを焼いて食べることで、体験の楽しさを味わう。 ○協力したり、役割分担したりしながら活動することで、「仲間の大切さ」を知る。 ○火の扱いを知り、安全に気をつけて活動する。				
準 備	施設から貸出	バーベキューコンロ大、バーベキューコンロ中、金網(中敷き)、火ばさみ、うちわ、炭入れ、じゅうのう、耐火手袋、圧電式ライター、調理器具、ビニール袋、竹、アルミホイル			
	団体で準備	軍手、(必要に応じて、水分補給用の飲料)			
	確認事項	・食物アレルギーの有無を確認する。 ・引率者は職員と実施方法や監視体制・安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
よ 活 り 動 前 日	①予約時に、アレルギーの有無を確認する。 ②申込書により、ぐるぐるヨーグルトパン材料(1セット6人分)、燃料を注文する。 (材料は、強力粉、ベーキングパウダー、砂糖、ヨーグルト、サラダ油、塩)	○注文数の変更は、3日前(祝日、休所日、土日を除く)の正午までとする。
活 動 の 説 明	≪研修団体担当者≫ ①職員と活動の流れやグループ編成などについて打ち合わせをする。 ②職員からふきん・雑巾を受け取り、試食・調理室の使い方、片付け方を確認する。 ≪研修団体全員≫ ①活動の流れを知る。 ②注意事項を知る。	○調理器具は、使用前・使用後ともに洗浄して使用する。 ○準備から片付けまでが研修であることを徹底する。 ○衛生面には十分に気を付ける。
展 開	【試食・調理室】 ①生地をこねる。 ②竹にアルミホイルを巻き、伸ばした生地を巻きつける。 ③片付け ・使った調理器具を洗って片付ける。 【玄関横】 ①炭に火をつける。 ②炭火で焼きながら食べる。 ③片付け・清掃・点検 ※片付けについて ・燃え残った炭は、じゅうのうで専用の缶に入れ、水をかけて消火する。 ・コンロの残った灰、まわりのごみなどを、ほうきで掃いてきれいにする。 ・その他の使った道具を片付ける。 ④ふりかえり	○材料をグループごとに分ける作業は、人数やグループ数に応じて研修団体が行う。 ○竹に生地を巻くときは、ひも状に伸ばしてから巻く。厚いと中まで焼けないので、生地をおさえながら、薄めに巻きつけるとよい。 ○炭に火をつけるとき、竹を回すとき、炭の片付けをするときには必ず軍手を着る。また、必要に応じて耐火手袋を着用する。 ○引率者は、火傷や火災事故等がないように、安全監視を行う。 ○ゴミは袋に入れ、ゴミステーションまで運ぶ。 ○片付け終了後に職員の点検を受ける。 ☆別紙作り方シートあり

3. 湖面活動

No.	301	カッター研修(1日コース)			
概 要	カッターに乗り、1人もしくは2人で1本の櫂(オール)を操作し、宍道湖に漕ぎ出す。天候や研修者の体力等を考慮し、適切なコースを出発前に決定する。天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。				
内 容	人数(人)	6～60人	時間	7時間	
	対象	中学生以上	時期	3～11月(12月は要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	職員・協力員による監視			職員・協力員による直接指導
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してカッターを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準 備	施設から貸出	9mカッター(最大20人)2艇 6mカッター(最大10人)2艇 櫂(オール) ライフジャケット 帽子(忘れた場合)			
	団体で準備	活動しやすい服 運動靴 帽子 タオル 水筒 カップ			
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。 ・事前に野外弁当等の注文が必要になる。			

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。(事務室前のホワイトボードを確認する) ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物を確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①カッター研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し、立つ・座る等の練習をする。 ③持ち物を確認する。(帽子、タオル、水筒、天候によってはカップ) ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中で、櫂の名前の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けられないよう留意する。
展 開	①指導スタッフの紹介 ②カッターの漕ぎ方等の説明を聞く。 ③ライフジャケット、タオルを身につける。 ④櫂をカッターまで運ぶ。 ⑤カッターの漕ぎ方の実演を見る。 ⑥カッターに乗り、漕ぎ方、櫂立て等の練習をする。 ⑦船川から宍道湖へ漕ぎ出す。(途中休憩あり) ⑧秋鹿なぎさ公園で上陸し、昼食・トイレ休憩をとる。 ⑨休憩後、艇庫に向かって漕ぐ。 ⑩着岸後、櫂を艇庫に運ぶ。 ⑪カッターに乗り、「櫂座栓閉め」の儀式を行う。 ⑫艇庫に戻り、ライフジャケットをはずす。 ⑬ふり返りをする。 ⑭バスに乗ってサン・レイクへ帰る。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○カッターは、艇庫南側の岸壁に停泊している。櫂は重く長いうえ、階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○9mカッターには3人、6mカッターには2人指導スタッフが乗船する。研修者は、指導スタッフの指示に必ず従って動くようにする。 ○漕ぐ時、櫂から絶対手を離さない。 ○引率者は、原則として救助艇に乗船する。カッターに乗る場合は、研修者への声がけを控える。 ○天候が急に悪化した場合、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

No.	302	カッター研修(半日コース)			
概要	カッターに乗り、1人もしくは2人で1本の櫂(オール)を操作し、宍道湖に漕ぎ出す。天候や研修者の体力等を考慮し、適切なコースを出発前に決定する。(コースの長さは、約4km～7km)天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。				
内容	人数(人)	6～60人	時間	3時間	
	対象	中学生以上	時期	3～11月(12月は要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	職員・協力員による監視			
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してカッターを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準備	施設から貸出	9mカッター(最大20人)2艇 6mカッター(最大10人)2艇 櫂(オール) ライフジャケット 帽子(忘れた場合)			
	団地で準備	活動しやすい服 運動靴 帽子 タオル 水筒 カップ			
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の注意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。			

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。(事務室前のホワイトボードを確認する) ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物を確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①カッター研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し、立つ・座る等の練習をする。 ③持ち物を確認する。(帽子、タオル、水筒、天候によってはカップ) ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中で、櫂の名前の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けられないよう留意する。
展開	①指導スタッフの紹介 ②カッターの漕ぎ方等の説明を聞く。 ③ライフジャケット、タオルを身につける。 ④櫂をカッターまで運ぶ。 ⑤カッターの漕ぎ方の実演を見る。 ⑥カッターに乗り、漕ぎ方、櫂立て等の練習をする。 ⑦船川から宍道湖へ漕ぎ出す。(途中休憩あり) ⑧休憩後、艇庫に向かって漕ぐ。 ⑨着岸後、櫂を艇庫に運ぶ。 ⑩カッターに乗り、「櫂座栓閉め」の儀式を行う。 ⑪艇庫に戻り、ライフジャケットをはずす。 ⑫ふり返りをする。 ⑬バスに乗ってサン・レイクへ帰る。 バスの中で、宍道湖の自然について話を聞く。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○カッターは、艇庫南側の岸壁に停泊している。櫂は重く長いので、階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○9mカッターには3人、6mカッターには2人指導スタッフが乗船する。研修者は、指導スタッフの指示に必ず従って動くようにする。 ○漕ぐ時、櫂から絶対手を離さない。 ○引率者は、原則として救助艇に乗船する。カッターに乗る場合は、研修者への声がけを控える。 ○天候が急に悪化した場合、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

No.	303	サバニ研修(1日コース)			
概要	サバニ(10人乗りの大型カヌー)に乗り、パドルを操作し、宍道湖に漕ぎ出す。天候や研修者の体力等を考慮し、適切なコースを出発前に決定する。(コースの長さは、約16km～20km)天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。研修者の実態に合わせて、指揮艇による曳航(ロープで引っ張る)ことも可能。				
内容	人数(人)	10～40人	時間	7時間	
	対象	高学年以上	時期	3～11月(12月は要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			職員・協力員による直接指導
	安全管理	職員・協力員による監視			
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してサバニを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準備	施設から貸出	ライフジャケット ゼッケン パドル 帽子(忘れた場合)			
	団体で準備	活動しやすい服 運動靴 帽子 タオル 水筒 カップ			
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。 ・事前に野外弁当等の注文が必要になる。			

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①サバニ研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し等の練習をする。 ③持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中でも、パドルの名前等の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けられないよう留意する。
展開	①指導スタッフの紹介 ②サバニに乗る際の注意点など説明を聞く。 ③ライフジャケット、ゼッケンを身につける。 ④パドルを運ぶ。 ⑤パドルの持ち方を教わる。 ⑥サバニの座り方、漕ぎ方等の実演を見る。 ⑦サバニに乗り、漕ぎ方の練習をする。 ⑧船川から宍道湖へ漕ぎ出す。(途中休憩あり) ⑨秋鹿なぎさ公園で上陸し、昼食・トイレ休憩をとる。 ⑩休憩後、松江港に向かって漕ぐ。(松江港片道コースの場合) 休憩後、艇庫に向かって漕ぐ。(秋鹿なぎさ公園コースの場合) ⑪松江港(艇庫前)着岸後、船から下りてゼッケン、ライフジャケットをはずす。 ⑫バスに乗ってサン・レイクへ帰る。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○サバニは、艇庫南側の岸壁に停泊している。階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○サバニの一番後ろには、艇長という指導スタッフが1名乗船する。研修者は、艇長の指示に必ず従って動くようにする。 ○引率者は、指揮艇に乗船することも可能。 ○引率者がサバニに乗る場合は、研修者への声がけ等を控える。 ○天候が急に悪化した場合、コースを変更したり、途中で引き返したりする場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

No.	304	サバニ研修(半日コース)			
概要	サバニ(10人乗りの大型カヌー)に乗り、パドルを操作し、宍道湖に漕ぎ出す。天候や研修者の体力等を考慮し、適切なコースを出発前に決定する。天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。研修者の実態に合わせて、指揮艇による曳航(ロープで引っ張る)ことも可能。				
内容	人数(人)	10～40人	時間	3時間	
	対象	年長以上	時期	3～11月(12月は要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	職員・協力員による監視			
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してカッターを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準備	施設から貸出	ライフジャケット ゼッケン パドル 帽子(忘れた場合)			
	団体で準備	活動しやすい服 運動靴 帽子 タオル 水筒 カップ			
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。			

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①サバニ研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し等の練習をする。 ③持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中でも、パドルの名前等の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けられないよう留意する。
展 開	①指導スタッフの紹介 ②サバニに乗る際の注意点など説明を聞く。 ③ライフジャケット、ゼッケンを身につける。 ④パドルを運ぶ。 ⑤パドルの持ち方を教わる。 ⑥サバニの座り方、漕ぎ方等の実演を見る。 ⑦サバニに乗り、漕ぎ方の練習をする。 ⑧船川から宍道湖へ漕ぎ出す。(途中休憩あり) ⑨休憩後、艇庫に向かって漕ぐ。 ⑩着岸後、パドルを艇庫に運ぶ。 ⑪ゼッケン、ライフジャケットをはずす。 ⑫ふり返りをする。 ⑬バスに乗ってサン・レイクへ帰る。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○サバニは、艇庫南側の岸壁に停泊している。階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○サバニの一番後ろには、艇長という指導スタッフが1名乗船する。研修者は、艇長の指示に必ず従って動くようにする。 ○引率者は、指揮艇に乗船することも可能。 ○引率者がサバニに乗る場合は、研修者への声がけ等を控える。 ○天候が急に悪化した場合、コースを変更したり、途中で引き返したりする場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

No.	306	カヌー研修				
概要	1人乗りのシットオントップカヤックや2人乗りのカナディアンカヌーに乗り、パドルで漕ぎながら船川周辺を進むプログラム。カナディアンカヌーの場合、大人といっしょに乗れば幼児でも乗船可能。漕ぎ方によっては転覆したりぬれたりする可能性がある。					
内容	人数(人)	～47人	時間	3時間	シットオントップカヤック カナディアンカヌー	
	対象	高学年以上	時期	3～11月(12月は要相談)		
	場所	平田船川周辺・宍道湖				
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導				
	安全管理	引率者・職員による監視				
ねらい	○安全に気をつけてカヌーを漕ぐ。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○仲間と協力してカヌーの準備や片づけをする。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。					
準備	施設から貸出	シットオントップカヤック(1人乗り)17艇 カナディアンカヌー(2人乗り)15艇 ライフジャケット パドル 帽子(忘れた場合)				
	団地で準備	ぬれてもよい服・靴(サンダル不可) 帽子 タオル 水筒 カップ				
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。				

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①カヌー研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ③バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中でも、パドルの名前等の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。
展 開	①指導スタッフの紹介 ②カヌーに乗る際の注意点など説明を聞く。 ③ライフジャケットを身につける。 ④カヌーをスロープまで運ぶ。 ⑤カヌーの座り方、漕ぎ方等(前進、後進、停止、曲がり方)の実演を見る。 ⑥実際にカヌーに乗り込み、艇庫前で漕ぎ方等の練習をする。 ⑦船川から宍道湖へ漕ぎ出す。 ⑧指示があったら艇庫(スロープ)に向かって戻る。 ⑨着岸後、カヌーを艇庫に運ぶ。 ⑩ライフジャケットをはずす。 ⑪ふり返しをする。 ⑫バスに乗ってサン・レイクへ帰る。 バスの中で宍道湖の話を聞く。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○カヌーは、艇庫前に出している。スロープを下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○カヌーに乗りこんだら、指導スタッフが船川に向かってカヌーを押し出すので、他のカヌーの邪魔にならないよう、漕ぎ進める。 ○救助艇や陸上の指導スタッフの指示を聞きながら、自由に漕ぐ。 ○天候が急に悪化した場合、時間前でも中止する場合がある。 ○風がある日は流されることもあるので気をつける。 ○落水した場合は、ライフジャケットがあるので必ず浮くので、慌てず救助艇がくるのを待つ。 ○終わる時は、スロープに向かってできるだけ真っ直ぐカヌーが着けるようにする。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

プログラム資料

【湖面活動】

No.	307	いかだづくり					
概 要		角材、木板、ブイ等を組み合わせていかだを作り、船川周辺に浮かべて漕ぎ出すプログラム。				 	
内 容	人数(人)	6～40人	時間	3時間			
	対象	中学年以上	時期	3～11月(12月は要相談)			
	場所	平田船川および宍道湖					
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ				職員による直接指導	
	安全管理	引率者・職員による監視					
ねらい		○仲間と協力していかだを組み立てたり解体したりする。 ○安全に気をつけ最後まで全力で漕ぐ。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。					
準 備	施設から貸出	ライフジャケット いかだの材料 パドル 帽子(忘れた場合)					
	団体で準備	ぬれてもよい服(下に水着を着る方が望ましい) ぬれてもよい靴(サンダル不可) 帽子 タオル 水筒 カップ					
	確認事項	・いかだを複数作る場合は、グループ分けをしておく。(1つのいかだに乗れるのは、子どもで10～15人程度) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。					

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ④事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で並ぶ。 ⑤指導スタッフの指示で、乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①いかだづくりの意義、留意点等について話を聞く。 ②持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ③バスに乗り、艇庫へ向かう。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○説明から展開まで指導スタッフが全て行う。
展 開	①指導スタッフの紹介 ②説明を聞きながら、いかだを組み立てる。 ③いかだができたら、スロープまではこぶ。 ④ライフジャケットを着ていかだに乗り込む。 ⑤パドルをもっていかだを漕ぎ進める。 ⑥着岸後、いかだを運び、ライフジャケットを脱ぐ。 ⑦いかだを解体し、片付ける。 ⑧ふり返しをする。 ⑨バスに乗ってサン・レイクへ帰る。	○いかだづくり、いかだの漕ぎ方等の指導は、指導スタッフが全て行う。 ○怪我をしないよう、まわりに気を配りながら作業をする。 ○いかだは重いので、運ぶ時は十分気をつける。 ○いかだに乗る時や降りる時はバランスが崩れ傾くことがあるので注意する。 ○いかだに乗ったら立たないようにする。 ○コースは天候を見て判断する。 ○天候によっては、いかだができても乗れない場合がある。 ○落水した場合は、救助艇がくるのを待つ。 ○引率者は、いかだに乗ることが望ましい。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

No.	305	サバニ研修(しじみ観察コース)			
概要	サバニ(10人乗りの大型カヌー)に乗り、パドルを操作し、宍道湖に漕ぎ出す。(往復約3.5km)天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。研修者の実態に合わせて、指揮艇による曳航(ロープで引っぱる)ことも可能。				
内容	人数(人)	10～40人	時間	3時間	
	対象	年長以上	時期	3～11月(12月是要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖(斐伊川河口)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
	安全管理	職員・協力員による監視			職員・協力員による直接指導
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してカッターを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準備	施設から貸出	ライフジャケット 帽子(忘れた場合) パドル ジョレン(しじみを捕る道具) 水槽(しじみの観察用)			
	団体で準備	ぬれてもよい服(下に水着を着ておくといよい。) ぬれてもよい靴(サンダル不可) 帽子 タオル 水筒 カップ ビニール袋(しじみを入れるもの) クーラーボックス・保冷剤等(しじみの持ち帰り用)			
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。(乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。			

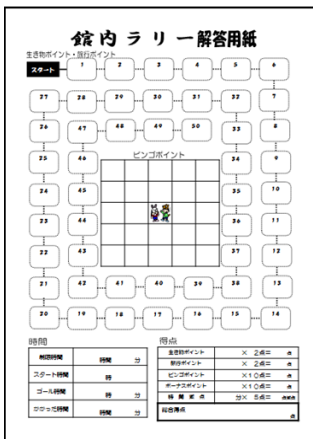
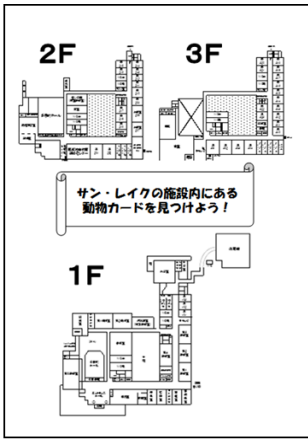
	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①サバニ研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し等の練習をする。 ③持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中でも、パドルの名前等の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けられないよう留意する。
展開	①指導スタッフの紹介 ②サバニに乗る際の注意点など説明を聞く。 ③ライフジャケットを身につける。ゼッケンは使用しない。 ④パドルを運ぶ。 ⑤パドルの持ち方を教わる。 ⑥サバニの座り方、漕ぎ方等の実演を見る。 ⑦サバニに乗り、漕ぎ方の練習をする。 ⑧船川から斐伊川河口へ向かい漕ぎ出す。 ⑨斐伊川河口の到着後、サバニから下りてしじみ観察を行う。 ⑩終了後、サバニに乗り、艇庫に向かって漕ぐ。 ⑪着岸後、パドルを艇庫に運ぶ。 ⑫ライフジャケットをはずす。 ⑬ふり返りをする。 ⑭バスに乗ってサン・レイクへ帰る。 ⑮サン・レイクに戻り、しじみの砂はき作業をする。 ⑯次の日、遠くまで帰る場合は、冷凍する。	○①~③は、艇庫内で行う。 ○サバニは、艇庫南側の岸壁に停泊している。階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○サバニの一番後ろには、艇長という指導スタッフが1名乗船する。研修者は、艇長の指示に必ず従って動くようにする。 ○引率者は、指揮艇に乗船することも可能。 ○引率者がサバニに乗る場合は、研修者への声かけ等を控える。 ○天候が急に悪化した場合、途中で引き返す場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○斐伊川河口に上陸する際、水筒はサバニに置いて降りる。 ○採ったしじみは持って帰ることができる。(漁協の許可を得ているが、普段は勝手に採ると罪を問われるので気をつけること。) ○しじみを入れた袋の中には水を入れない。(水を入れると早く弱る。) ○サバニに乗る時、できるだけ砂が入らないようにする。 ○砂はきの作業の仕方は、職員が指導する。サン・レイクを出発するまで、冷蔵もしくは冷凍保存をすることができる。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。

4. 屋内活動

No.	401	キャンドルのつどい			
概 要	仲間とろうソクの炎を囲み、ゲーム、ソング、ダンス、スタンツなどを行います。 また、研修のまとめとして行うこともできる。				
内 容	人数(人)	～200人	時間	2時間	
	対象	フリー	時期	通年	
	場所	多目的ホール ・ 体育館 ・ 第1・第2創作室			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による、火の管理・監督(消火まで)。また、点火時の安全指導・管理。			
ねらい	○なかまと共に過ごす喜びを味わい、友情を深める。 ○グループごとに、準備・片づけや活動することで協力する心、思いやりの心を育てる。 ○火の神秘さや大切に気付くことができる。				
準 備	施設から貸出	・営火長等の衣装 ・ワイヤレスアンプ ・ワイヤレスマイク ・CDデッキ ・延長コード ・中央燭台 ・個人用燭台 ・音楽CD ・ペンライト ・活動資料			
	団体で準備	・活動しやすい服装 ・スタンツ等で必要なもの <教材として注文するもの> ・ろうそく(大)5～6本程度 ・ろうそく(小)1人1本			
	確認事項	・集いの流れについては、各団体で事前に確認しておく。(事務室に参考資料あり) ・進行や役割分担、スタンツ等の事前準備を、必要に応じて行っておく。			

	内 容	留意事項
活動前	○引率及び研修者の一部で、職員といっしょに「キャンドル打ち合わせ」を行う。この時、借用物の確認をする。また、キャンドル同士の点火や消火の仕方を確認する。 (16時30分から30分程度)	○準備担当10名程度必要。 ○準備時には、職員が、燭台、片付け方、ろうソクの消火後の置き場所等の確認を行う。 ○当日複数の団体がキャンドルのつどいを行う場合は、所が場所を指定する。
活動の説明	○必要に応じて、キャンドルのつどいの目的・流れなどを説明する。	
展 開	(プログラム例) 第1部 採火の儀式  ※ 儀式なので、静かな雰囲気の中で行うことが多い。各団体で、進行・BGM等は、自由に行う。 ※ 第2部は、楽しい交流の場。進行係が、スタンツ、レク等のプログラムを考え、参加者の思い出の場。 ※ 第3部 送火の儀式  ※ 儀式なので、静かな雰囲気の中で行うことが多い。各団体で、進行・BGM等は、自由に行う。 ※ 第2部は、楽しい交流の場。進行係が、スタンツ、レク等のプログラムを考え、参加者の思い出の場。 ※ 第3部 送火の儀式  ※ 儀式なので、静かな雰囲気の中で行うことが多い。各団体で、進行・BGM等は、自由に行う。	○ 終了後、片付けを行い(火の確認等)、事務室に連絡し、職員の点検を受けること。 ○ 購入したろうソクは、使用后団体で持ち帰ってもかまわない。 ○ 利用団体は、健康状態の把握に努め、特に留意しなければならないことがあれば事前に相談すること。 ○ つどいの流れは、団体独自の流れで進める。(事務室に、参考資料あり) ○ ろうソクの代わりにペンライトへの変更が可能。(ペンライトは貸出可) ろうソクは、団体制作のオリジナルでもよい。ただし、持ち込んだろうソクは、使用後は持ち帰る。 ○ 片付けに関しては、事前の説明の通りにおこない、消火は安全に留意して行う。

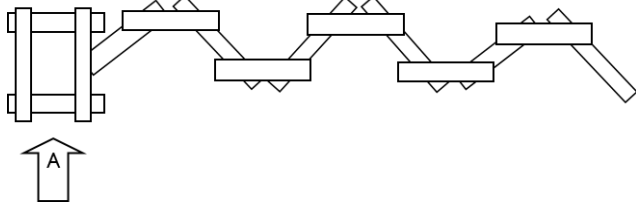
No.	402	館内ラリー			
概要	館内マップを見ながら、館内にある生き物カードを探し当てていく。				
内容	人数(人)	～50人	時間	1時間	
	対象	フリー	時期	通年	
	場所	館内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	〇友だちと協力し、仲良くゲームを楽しむことができる。				
準備	施設から貸出	・バインダー ・えんぴつ ・ボールペン ・解答用紙 ・館内マップ ・腕時計			
	団体で準備	〇活動しやすい服装			
	確認事項	〇グループ(～5人程度)分けを事前にしておくが良い。 〇対象にあった解答用紙を選ぶ。また、団体で準備されたクイズ等の使用もできる。その場合は事前に相談する。			

		内 容	留意事項
活動前	活動前	〇グループ編成を事前に考えておく。	〇対象に合わせて解答用紙を変更する。
	説明	〇館内ラリーについての説明をする。 ・館内をめぐる時のマナーなどについて伝える。 ・進み方として、地図をたよりに生き物カードを探し、解答用紙に生き物の名前を書いていくことを確認する。 ・制限時間を意識して活動するために、各班に時計を貸し出す。 ・得点の付け方について確認する。	〇研修室、宿泊室の中にはないので、子どもがうっかり研修中の部屋をあけないように説明をきちんとしておく。屋外には生き物カードがないことを知らせておく。
展開	活動中	①集合する。 ②館内ラリーの説明を聞く。 ・注意事項(ろうかは静かに歩く。) ・得点の説明を聞く。 ③グループごとに一斉にスタートする。 ・地図をたよりに生き物カードを探す。館内を仲間と協力して回る。 ④全員ゴールした後、答え合わせをする。 ⑤まとめをする。 ・感想発表など 〇解答用紙・地図  	〇得点を競い合うことだけでなく、ゲームをみんなで楽しむことも大切にする。 〇引率者は要所要所に立つようにする。必要に応じて児童と一緒に回る。 〇引率者は、活動中は自分の周辺での安全を含め、見守りを行う。 ※職員は様子を見て回る。 〇生き物カード 

No.	403	宝さがし			
概 要	探検マップに記された場所を順番に見つけたり、宝箱の鍵を探し出したりする。最後に宝箱の中のパズルを完成する。				
内 容	人数(人)	8～40人	時間	1～2時間	
	対象	幼～小2	時期	通年	
	場所	館内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による監視(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○友だちと協力し、仲良くゲームを楽しむことができる。 ○地図を使って課題を解決し、仲間の大切さに気づく。				
準 備	施設から貸出	・宝箱(鍵) ・箱(ピース入り) ・パズル台 ・パズルシート ・名札用ストラップ ・探検マップ ・探検カード ・シール			
	団体で準備	○活動しやすい服装			
	確認事項	○4グループで実施する。 ○引率者は担当職員と実施方法や監視体制、安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
活動前	○担当者と打ち合わせをする。	○4グループに分けておく。 ○各グループにつき引率者を決めておく。
活動の説明	○グループで行動することを伝える。 ○「探検マップ」にある12か所を順番に見つけて、鍵の箱を見つけたら、それを持って出発点にもどる、などルールを説明する。 ○ろうかを歩くときのマナーを伝える。	○研修室、宿泊室の中にはないので、子どもがうっかり研修中の部屋をあけないように説明をする。屋外にも渡り廊下にも無いことを知らせておく。
展 開	○4グループで並ぶ。 ○各グループに、「探検マップ」を1つ、「探検カード」を1人1枚ずつ渡す。「探検カード」は、名札用ストラップで首からかける。 ○活動の説明を聞き、活動を始める。 ○「探検マップ」にある12か所を見つける。1階、2階、3階それぞれ4か所を見つけるごとに、引率している大人は、子どもが持つ「探検カード」にシールを貼る。 ○4チームみんなそろったら、宝箱をあけて、中に入っているパズルのピースを協力してはめる。 ○宝箱の中のパズルのピースをグループのメンバーと協力しながらはめる。 ○パズルが完成したら、振り返りをして終わり。(記念撮影の時間等にしてもいい) ※時間や人数に応じて、活動の変更も可能 ○短時間バージョン①…4つのグループになり、鍵の入ったそれぞれの箱を探す。少人数ならば1グループで4つの箱を探す。後はパズルの活動。 ○短時間バージョン②…パズルの活動のみ。 ○人数が多いときには、シートをつけてパズルを完成させる。 ○人数が少なかったり、対象年齢が低かったりする場合は、シートを外して、裏側のパズルを利用して活動する。その際、最後にパズルを一斉に裏返して完成させる。)	○探検マップと名札用ストラップは回収。探検カードは持って帰ってもらう。 ○対象に合わせて課題の出し方は工夫する。 ○ゲームをみんなで楽しむことを主眼とする。 ○引率者は、活動中は自分の周辺での安全を含め、見守りを行う。 ※職員は様子を見て回る。

No.	404	カプラ			
概 要	KAPLA(カプラ)を使って、積み上げ競争や作品制作活動を行う。				
内 容	人数(人)	2～150人	時間	1～1.5時間	
	対象	フリー	時期	通 年	
	場所	体育館・多目的ホール・第5研修室 等			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	グループごとの場所の指示と引率者による監視、職員による巡回			
ねらい	○ルールを守ったり、チームで作戦を考えたりして活動を行いながら、仲間との交流を深める。				
準 備	施設から貸出	・カプラ(1000ピース)、メジャー(記録計測用)・イス・カプラの本(作品例)・ストップウォッチ			
	団体で準備	活動しやすい服装			
	確認事項	・カプラは現在、12箱所有している。1グループに1箱のカプラが活動しやすく望ましいことから、12グループ以下でグループ分けしておくとうい。			

	内 容	留意事項
活動前	○活動場所にカプラを移動しておく。 (常時、第1倉庫に保管) ○グループ編成の確認。1グループに1箱が望ましい。	○安全に行えるようグループの場所を指示しスペースを確保する。
活動の説明	○片づけ方の説明をはじめに行う。 ○積み上げ競争の説明から始める。	
展 開	★積み上げ競争(計測用メジャー、椅子準備) ①グループ練習(5分) ※グループで積み方を話し合う ②積み上げチャレンジ1回目(制限時間5分)→記録計測・発表 ③積み上げチャレンジ2回目(制限時間5分)→記録計測・発表 ④記録発表(最高記録、総合記録など) ⑤感想発表・片付け ・積み上げ競争(2018年の日本記録 14m80cm) ・ナイアガラの滝に挑戦 ★ナイアガラの滝 ①基本の組み方を確認 ※長さは団体の人数に応じて  ②みんなで協力しながら、積み上げていく。 ③大きさ、高さをみんなで確認する。 ※記念撮影をしてもよい ④上図Aの部分外して崩す。 →きれいに組んであれば最後まできれいに崩れる。 ⑤感想発表・片付け   ★自由に制作活動 ①本を紹介し、本の中から作ってみたいものを選んだり、参考にしたりする。 ★ふりかえり	○積み上げ競争では、どんな積み上げ方をすれば良いかグループで相談したり、グループ同士で意見交換をしたらいい。 ○引率者は、活動中は自分の周辺での安全を含め、見守りを行う。 ※職員は様子を見て回る。

No.	406	キンボール			
概 要	直径122cm、重さ約1Kgのボール(キンボール)を使い、サーブやレシーブを繰り返し、得点を競い合うゲーム。				
内 容	人数(人)	12～40人	時間	2～3時間	
	対象	小5以上	時期	通 年	
	場所	体育館			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による、参加者の観察。状況に応じては、職員と情報交換。			
ねらい	○心身の健康・体力の保持・増進を図る。 ○ルールを守ったり(工夫したり)、チームで作戦を考えたりしてゲームを行いながら、仲間との交流を深める。				
準 備	施設から貸出	・ボール・専用ゼッケン・得点版・エアー機・デジタイマー・ゼッケン			
	団体で準備	・体育館シューズ・タオル・水分補給用の飲料			
	確認事項	・3グループ対抗でゲームを行うことから、1グループを4人以上6人以下にするよう確認する。			

	内 容	留意事項
活動前	○用具の準備・準備運動をする。 ・ボール、得点板、ゼッケン等 ○3グループに分ける。ゲームは各グループ4人で行うことを説明。	○キンボールを機械を使って空気を入れ膨らませる。
活動の説明	○〔ゲームを始める前に〕 試合開始前にまず、各チームのメンバーは、チームカラーを示すゼッケン(ピンク、ブラック、グレーのいずれか)を着用する。サーブ権は、各チームのキャプテンがじゃんけんで決める。 [ゲームの進め方]  ①3人でボールを支え、コール後にプレーヤーの1人がボールをヒットします。 ↓  ②コールされたチームは、ボールが床に落ちる前にレシーブします。 ↓  ③ボールを床に落とさないようにチームメートと協力し、3人でボールを支えます。 ↓  ④今度はレシーブチームがヒットチームになり、コール後にプレーヤーの1人がボールをヒットします。 ・反則やプレーに失敗があった場合に、他の2チームに各1点が与えられます。ゲームは3セットマッチで、各セットは15分を基本としますが、参加者の体力や研修時間を考慮し短くてもかまいません。 ・2セット目からは、最も点数の低いチームがサーブ権を得、ゲーム開始となります。勝敗は3セットマッチの総得点で競います。	○各セットの時間や、セット数、休憩などは、その時の実態を考慮して、決める。 ○味方のメンバー全てがサーブの瞬間にボールに触れていなければならない。1人のプレーヤーが続けて2回サーブできない。サーブの前に必ず「オムニキン」という言葉とレシーブチームの色を言うてから行う。相手の色をコールするのは、サーブチームの誰か1人がする。ボールは床に着く前に上に向かって飛ばすか、まっすぐ飛ばすか、頭上に飛ばすかしてボールの直径の2倍以上飛ばさなければならない。 ○ボールが床に着く前にボールを捕らえなければならない。レシーブするチームは身体のだのの部分を使ってボールをキャッチしてもかまわない。ただし、つま先のキックは怪我やボールの破損につながるので禁止とする。ボールのナイロンカバーや口の部分をつかんでレシーブしてはならない。
活動の展開	○ルールに従って、ゲームを実施する。 ○まとめ ○ふり返り	○審判など、足らない時には、参加者同士でセルフジャッジできるようにする。

No.	407	ペタンク(室内、屋外)			
概 要	発祥はフランスで、ヨーロッパでは盛んに行われている。 ペタンクはビュットと呼ばれるプラスチックの小さな玉を基準にして、より近くにボールを投げて得点を競う。				
内 容	人数(人)	2～72人	時間	1～2時間	
	対象	小3以上	時期	通 年	
	場所	多目的ホール、第5研修室、体育館、グラウンド 等			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による、参加者の観察。状況に応じては、職員と情報交換。			
ねらい	○心身の健康・体力の保持・増進を図る。 ○ルールを守ったり、チームで作戦を考えたりしてゲームを行いながら、仲間との交流を深める。				
準 備	施設から貸出	屋外用 8組 (つどいの広場) 室内用 6組 (第3倉庫)			
	団体で準備	・タオル・水分補給用の飲料(・体育館の場合:体育館用のシューズ)			
	確認事項	○参加者人数、活動時間を考え、チーム分け、対戦方法を考える。			

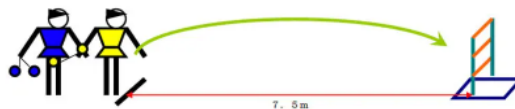
	内 容	留意事項
前 活 動	○ 用具の準備、説明(ルールなどの確認)・チーム分けをする。 ○ いろいろな投げ方をしてみる。(練習)	○ボールが硬いので、投げる練習をするときは、前に人がいないようにする。
活 動 の 説 明	・ゴム製(屋外はスチール製)のボールを投げ、ビュットという目標球にどれだけ近づけるかで得点を競う軽スポーツで、助走なしでボールを投げるので老若男女誰でも一緒に楽しめる。チームワークと正確なコントロールが決め手になる奥の深いスポーツである。 ・通常はトリプルス(3対3)で行うが、場合によってはダブルス・シングルスで行う。 ・トリプルスは各自2個ずつ、ダブルスは各自3個または2個ずつ、シングルスは各自3個ずつのボールを持つ。 ・規則は、日本ペタンク協会競技規則に準じる。 【ゲームの進め方】 ①ビュットを投げる先行チームをじゃんけんなどで決める。 ②サークル内からビュットを投げる。サークルからビュットまでの長さは6mから10mであれば試合を開始する。 ③ビュットを投じた先行チームがボールを投げる。 ④後攻のチームがボールを投げる。 ⑤ビュットから遠い方のチームがビュットに近くなるまで投げる。 ⑥投げるボールがなくなると後のチームのボールがなくなるまで投げる。投げる玉がなくなれば1メーヌ(1セット)終了。得点を計算する。得点が高い方のチームが次のビュットを投げる。 得点は13点を先に取った方が勝ちとなる。(11点方法もある)	
展 開	○ルールに従って、ゲームを実施する。 ○まとめ ○ふり返り   室内ペタンク 屋外ペタンク	○審判など、足らない時には、参加者同士でセルフジャッジできるようにする。

No.	405	チャレンジ・ザ・ゲーム			
概 要	特別な体力や技能を必要としない、やっておもしろく、見て楽しい、しかも健康づくりに役立つ記録に挑戦するゲーム。				
内 容	人数(人)	2～60人	時間	2～3時間	
	対象	小1以上	時期	通 年	
	場所	体育館・多目的ホール			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	事前の打ち合わせ、健康観察と引率者、職員による観察			
ねらい	○心身の健康・体力の保持・増進を図る。 ○互いに声を掛け合い協力しながらゲームを楽しむとともに、仲間との交流を深める。				
準 備	施設から貸出	キャッチング・ザ・スティック、リングキャッチ、ロープジャンプ用ロープ、ネット・パス・ラリー用ネット、デジタルイマー、サークル・ジャンプ、ドッジボール、バンブーダンス用竹セット、電子ホイッスル			
	団体で準備	運動ができる服装、体育館で行う場合上履き			
	確認事項	○参加者の実態に合わせて、活動内容(ゲーム)を2～4つ程度決める。 ○ゲームの種類数に合わせて、グループ分けする。 ○引率者は担当職員と監視体制、安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
活動前	○引率者とゲーム内容の確認。	○配慮すべき参加者の確認。 ○健康観察 ○体育館で行う場合は気温と湿度の測定により必要な措置をとる。
活動の説明	○用具の準備に合わせ、片づけについても説明をする。 ○活動内容、ルールについて説明する。 ・活動が4つあれば4グループに分かれてローテーションしながら行う。 ・1つのゲームについて(練習3分・本番①5分、練習3分、本番②5分)といった時間配分で実施する。 ○各ゲームを実際にやってみせながら説明する。	○ルール説明は、引率の方にも手伝ってもらいながら、実演をする。 ○ゲームの結果については、他チームとの比較よりも、自分たちの結果の伸びに注目していくことを伝える。
展 開	①用具の準備、準備運動 ②説明(実演)を見て、ゲームの仕方を知る。 ③チャレンジ・ザ・ゲームをする。(2～4種目を実施) 「ロープ・ジャンプ」 ・回しているロープに複数人が入り、全員そろって何回跳べるか挑戦する。 「グループ・バンブー・ダンス」 ・竹を打ち付けるリズムに合わせて、バンブーダンスを行う。グループで失敗せずに何回飛べるかを競う。 「キャッチング・ザ・スティック」 ・10人が横一列に並び、位置を変えながらスティックを倒さずに何回キャッチできるかを競う。 「リング・キャッチ」 ・10人で輪を投げ合い、全員で何回キャッチ(受け渡し)できるかを競う。競技は3回までできる。 「ネットパスラリー」 ・ネットにボールを載せてもち、ペア2組で向かい合い、ネットの上のボールを交換する。時間内の成功回数を競う。 「スピード・ラダーゲッター」 ・ボールを投げて、すべてのラダーにどれだけ早くかけられるかを楽しむ。 その他の種目もあります。 ④まとめ ・感想発表等	○適宜、ウォーミングアップをしてから行う。 ○ホワイトボードに結果一覧表をつくり、結果を書き込む。 ○職員による観察を適宜行い、健康状態の把握に努める。  

No.	408	ラダーゲッター			
概 要	ひも付きボールを投げて、ラダーに引っかけて、得点やスピードを競い楽しむゲーム。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	1～2時間	
	対象	フリー	時期	通 年	
	場所	多目的ホール、体育館、第5研修室			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による、参加者の観察。状況に応じては、職員と情報交換。			
ねらい	ルールを守ったり、チームで作戦を考えたりして活動を行いながら、仲間との交流を深める。				
準 備	施設から貸出	ラダーゲッターセット(3セット)			
	団体で準備	水分補給用の飲料、(体育館の場合:運動靴)			
	確認事項	グループ分けをしておく。(2～3グループ)			

	内 容	留意事項
活動前	○グループを分けておく和良好的。 ○必ず投げる練習をする。	○ボールが硬いので、投げる練習をするときは、前に人がいないようにする。 ○コントロールがつきにくいので、下手投げで安全にボールを投げる。
活動の説明	<ルール> ・ラインからラダーまでの距離は7.5mとする。 ・投げ方は、アンダースローとする。 ・2チームで行う。先攻が、手持ちの3つのボールを連続で投げる。投げ終わったら、後攻が、同じく3つのボールを連続で投げる。 ・一番上のバー:3点。真ん中のバー:2点。一番下のバー:1点。地面にバウンドしてバーに引っかかる:5点。とする。 ・このプレイを繰り返し、21点先取した方を勝ちとする。21点を超えてしまった場合は、その点数が無効となり、オーバーした前の得点から始めなくてはならない。 ・ゲームは、シングルス戦(1人対1人)、ペア戦(2人対2人)、チーム戦等で行います。	○一般的なゲームの他に、チャレンジザゲームの一つとして、スピードラダーゲッターもある。これを行っても良い。 ○研修団体の年齢や体力等により、距離を短くするなど工夫することもできる。
展 開	①準備 ②ルール説明 ③ゲーム ④片付け	



No.	409	ロープワーク			
概 要	ロープワークについて学び、そのスキルを使って、はしご作り等をする。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	1～2時間	
	対象	小5以上	時期	通 年	
	場所	多目的ホール・体育館・艇庫・創作室 第5研修室・エントランス			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者は、はしご等の作成後、それを昇降する際の安全管理を職員と連携して行う。			
ねらい	○ロープワークに関する知識や技術を習得する。 ○学んだ技術を活かして、はしごなどを作り、仲間と協力する気持ちを養う。				
準 備	施設から貸出	・練習用ロープ・はしご用角材・セーフティーマット・子ども用ヘルメット			
	団体で準備	水分補給用の飲料、(体育館の場合:運動靴)			
	確認事項	・ 湖面活動ができない場合や2航海する場合の裏プログラムとして行ってもよい。			

	内 容	留意事項
活動前	○グループに分かれる。	
活動の説明	○ロープワークの説明 ・ロープワークの有用性を伝える。(こんな時に使えるよ。) ・紐靴の紐のチェックなど(立て結び or 本結び)	
展 開	○ロープワークを練習する。 ・「本結び」・「巻結び」・「てこ結び」などの基本的な結び方を練習する。 ・ほどき方を練習する。 ・練習した結びをつかって、縄ばしごを作る。 ○はしごの作り方を説明 ○はしごを設置。(角材 各班5～6本) ○はしごを登る。(マット使用・子ども用ヘルメットの着用) ・艇庫:サバニの船台の上まではしごを使って登る。 ・多H:2階に登る/タッチする。 ・体育館:ギャラリーの途中まで登る。 ・エントランス:2Fの欄干まで登る。 ○ まとめ	・はしごを設置するときは、一はしごにつき2名体制で行う。上で引き上げる役と下で指示をする役割とわかれるとよい。(安全管理上) ・研修者が登り降りする際、引率者は職員の指導のもと安全管理に努める。



No.	410	宍道湖の生き物発見ゲーム			
概 要	館内にある宍道湖の生き物カードを探し当てていく。				
内 容	人数(人)	2～50人	時間	1. 5～2時間	
	対象	小3以上	時期	通年	
	場所	館内			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者による見守り(ポイント及びその周辺)と職員による巡回			
ねらい	○友だちと協力し、仲良く生き物カードを探すことができる。 ○生き物についてのクイズに答え、宍道湖の生き物に対する関心や理解を深める。				
準 備	施設から貸出	・バインダー ・えんぴつ ・ボールペン ・解答用紙 ・腕時計 ・クイズカード集(全10問) ・生き物カード(館内に常設 全30枚) ・クイズのヒントカード集(A6サイズ 全30枚)			
	団体で準備	・活動に適した服装(歩きやすい靴など)			
	確認事項	・グループ(～5人程度)分けを事前にしておくといい。 ・対象にあったやり方を選ぶ。 ・引率者は担当職員と実施方法や監視体制、安全管理等について事前に確認を行う。			

	内 容	留意事項
活動前	○グループ編成を事前に考えておく。	○対象に合わせてやり方を変更する。
活動の説明	○やり方 《共通(初級編)》 ・制限時間内に館内を巡り歩き、生き物カードを探す。 ・生き物カードを見つけたら、名前を解答用紙に書いていく。 ・ゴールしたら、答え合わせをし、見つけて正解した分の得点を計算。 《中級編》 ・生き物カードに記載されている解説文(クイズのヒント)も読んでおく。 ・ゴールしたら、答え合わせをし、見つけて正解した分の得点を計算。 ・さらに、クイズカード集を受け取り、クイズに挑戦(ヒントカード集あり)。 《上級編》 ・生き物カードに記載されている解説文(クイズのヒント)も読んでおく。 ・ゴールしたら、答え合わせをし、見つけて正解した分の得点を計算。 ・さらに、クイズカード集を受け取り、クイズに挑戦(ヒントカード集なし)。 ○得点のつけ方 《生き物得点》は、カードを見つけたら得点。(10点×全30枚) 《クイズ得点》は、クイズに正解したら得点。(20点×全10問) 《時間得点》は、制限時間内にゴールできたら100点。 (ただし、「1分遅れる毎に5点減点」)	○出発前に必ず伝える事項 ・生き物カードは、研修室、宿泊室の中、屋外も渡り廊下にはない。 ・研修室、宿泊室には立ち入らない。 (うっかり研修中の部屋をあけないように探す場所をきちんと説明して伝える。) ・ろうかは静かに歩く(走らない)。 ・全部見つからなくても、制限時間内にグループのメンバー揃ってゴールする。 ・得点や早さを競い合うことだけでなく、ゲームをみんなで楽しむことも大切にする。 ・得点の付け方。 時間得点の減点があるので、グループ毎に特にゴール予定時刻を確認してから出発。
展 開	①グループごとに集合する。 ②説明を聞く ・めあての共有 ・注意事項(館内をめぐるときの、注意事項やマナーなど) ・やり方(ルール、得点の付け方、制限時間など) ・道具の貸し出し ③グループごとに一斉にスタートする。 ・仲間と協力し、館内を歩いて生き物カードを探し回る。 (探す順番は、カードの番号順でなくてよい) ・見つけたカードの生き物名を解答用紙に記録する。 ④グループごとに、全員ゴールした後、クイズに答える。 ・クイズカード集を借りる(中級編・上級編)。 ⑤全チームが帰ってきたら、答え合わせをする。 ⑥まとめ(振り返り、感想発表など)	○活動中の監視体制 ・引率者は要所要所に立ち、自分の周辺での安全監視を行う。 (必要に応じて児童と一緒に歩いて回る。) ・職員は適宜、巡回を行う。 ○グループ数が多い場合 ・グループ毎に分散してスタートしてもよい。 例) 最初を探す階を指定する。 例) スタートする時刻をずらす。 (探し回る所要時間は変えない) 《クイズカード集》 クイズ① 次のうち、宍道湖七珍に入っていないのはどれでしょう？ マハゼ アサギ スズキ シラウオ 《ヒントカード集》 ① モロゲエビ モロゲエビは、宍道湖の七珍の一つ。成体は3センチメートル前後。冬から春にかけて産卵する。産卵後には、産卵場所を離れる。

5. コミュニケーションスキル

No.	501	なかまづくりゲーム			
概 要	みんなでアクティビティ(ゲーム)を楽しみ、様々な課題解決に挑戦しながら、「チャレンジ精神」「仲間の大切さ」「協力すること」「よりよいコミュニケーション」などについての気づき、育ちをうながすプログラム。				
内 容	人数(人)	10～40人	時間	2～3時間	
	対象	小5～	時期	通年	
	場所	多目的ホール、体育館、第5研修室			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者もゲームを観察し、参加者の変化(体調・人間関係など)に注視する。必要に応じては、職員と情報を共有する。			
ねらい	○アクティビティを楽しみながら、「仲良くする」「協力する」ことの大切さや心地よさを体感する。 ○今の集団にとって、「仲良くする」「協力する」とは具体的にどうすることなのか、体験の中から見つけ、全体で共有することで集団の関係性を向上させる。(チームビルディング)				
準 備	施設から貸出	プログラムの中で使用するグッズ			
	団体で準備	・活動しやすい服、水分補給用の飲料、(体育館の場合:運動靴)			
	確認事項	・団体内でのねらいの確認、参加者の参加後のイメージを共有しておく。			

	内 容	留意事項
活動前	<来所までに> 団体のねらい、人数、集団の様子、引率者の役割等について、引率者(担当者)と打ち合わせを行う。 <来所時> 事前打ち合わせの内容を担当職員が理解した上で、引率者と活動についての最終確認を行う。	・研修者の挑戦及び学びを保障するため、引率者による助言等は行わないことを確認する。
活動の説明	① 集合、あいさつ ② 活動の説明 ・活動の考え方、進める上での約束などについて、スタッフから確認する。 ・顔合わせも含めて、説明の前にアイスブレイクに入ることもある。	・あいさつ以降は、職員が進行を行う。
展 開	<主な展開例> ③「緊張をほぐす活動(アイスブレイク)」 全体、ペアをメインに ・簡単なアクティビティを通して、参加者の緊張をほぐす。 ④「失敗を責めない雰囲気作りの活動」 全体、ペアをメインに ・失敗しても大丈夫という雰囲気を作る。 ⑤「コミュニケーションを活かす活動」 大小のグループで ・簡単な課題解決のアクティビティを通して、参加者同士のコミュニケーションを引き出す。 ⑥「課題解決の活動」 大小のグループで ・グループで協力して課題解決にチャレンジする。 ○「活動⇒何が起きたかをふり返る⇒それが起きた原因や意味を考える⇒それに対して何ができるかを考える⇒次の活動」のサイクルで、様々なアクティビティに挑戦していく。 ○新たな活動にチャレンジしながら、それまでの活動での気づきを確かめたり新たな課題を見つけたりすることで、参加者の気づき、学びを促していく。 ⑦ まとめ ・活動を通して気づいたこと、学んだこと、感じたことを共有する。 ・次のプログラムや学校生活などにつなげられるものがないか確認する。 ⑧あいさつ、解散	・研修者の挑戦及び学びを保障するため、引率者による助言等は行わない。 ・どうしても活動に入れないと職員が判断した場合は、引率者にその参加者のフォローを依頼する。 ・簡単なチャレンジからスタートし、徐々に難しい課題へと挑戦していく。 ・時間や団体のねらいに合わせて、コミュニケーション要素の強いもの、課題解決要素の強いものなどを組み合わせて行う。 ・参加者の様子を見て内容を修正しながら展開する。 ・引率者は活動中の研修者の様子を観察し、その後の指導、活動に活かす。

No.	502	GWT(グループワークトレーニング)			
概 要	ワークシートを用いた課題(財)に挑戦することを通して、チームワークを高めたり協力したりすることの大切さに気づくプログラム。				
内 容	人数(人)	4～40人	時間	1. 5～3時間	
	対象	小5～	時期	通年	
	場所	各研修室、多目的ホール			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者もゲームを観察し、参加者の変化(体調・人間関係など)に注視する。必要に応じては、職員と情報を共有する。			
ねらい	○GWTの財(ワークシート等を用いた体験プログラム)を楽しみながら、「仲良くする」「協力する」ことの大切さや心地よさを体感する。 ○今の集団にとって、「仲良くする」「協力する」とは具体的にどうすることなのかを体験的に学び、共有することで、集団の関係性を向上させる。(チームビルディング)				
準 備	施設から貸出	・GWT資料 ・ワークシート ・模造紙 ・コピー用紙 ・えんぴつ ・消しゴム ・マーカー 等			
	団体で準備	・筆記用具			
	確認事項	・団体内でのねらいの確認、参加者の参加後のイメージを共有しておく。			

	内 容	留意事項
活動前	<来所までに> 団体のねらい、人数、集団の様子、引率者の役割等について、引率者(担当者)と打ち合わせを行う。 <来所時> 事前打ち合わせの内容を担当職員が理解した上で、引率者と活動についての最終確認を行う。	・研修者の挑戦及び学びを保障するため、引率者による助言等は行わないことを確認する。
活動の説明	① 集合 ② アイスブレイク ・活動時間により省略する場合もある。 ③ グループ分け、約束等の確認 ・活動は成功が目的ではない。チャレンジに失敗したら、なぜそうなったかをふり返る。 ・仲間を尊重する。	・あいさつ以降は、職員が進行を行う。 ・引率者は、職員からの依頼があった場合にのみ、グループ分け等の援助に入る。
展開	④ 財の確認(5分) ・設定、課題を確認する。 ⑤ 課題解決に挑戦 ・グループごとの課題の解決に挑戦する。(20分) ⑥ 結果発表 ・グループごとに解決結果を発表する。(5分) ⑦ ふりかえり(10分) ・ふりかえりシートを使い、解決過程を見直し、ふりかえる。 ⑧ 次の財に挑戦 ・④～⑦をくり返す。 ⑨ まとめ ・活動を通して気づいたこと、学んだこと、感じたことを発表しあう。 ・日常に一般化する。	・あいさつ以降は、職員が進行を行う。 ・簡単なアイスブレイクからスタートし、ねらいに沿った財を実施し、その振り返りを行う。 ・財の種類により、活動時間は異なるので、打合せの際に実施する財について密に打合せをしておく。 ・引率者は参加者の言動を観察し、その後の指導、活動に活かす。

6. 創作活動

No.	601	レザークラフト			
概 要	レザー(革)に模様を付けたり色を塗ったりして、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	40人	時間	2～3時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ 革の特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設からの貸出	レザークラフト 用具一式 (画材含む。最大40セット、12班分)			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ キーホルダー ○ コースター ○ 小銭入れ ○ 創作レザー			
	確認事項	教材の種類や活動人数などにより、活動時間が異なりますので、事前にご相談ください。 各自が異なる教材で制作する場合も、制作過程が異なる部分がありますので、事前にご相談ください。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行う。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 ・レザークラフトの基礎知識(革の特性、技法などの紹介) ・作り方 ・道具と画材の取り扱い方 等	○ 安全上の注意 ・ゴム板…重いので、持ち運び注意。 ・木づち…指を叩いたり、振り回さない。 ・染料 …服などに付くと落ちない。
展 開	○ 制作 1) 打刻 ・レザーをぬらし、刻印棒で模様を打ち付ける。 2) 染色 ・色を付けて、ドライヤーで乾かす。 3) 色止め ・ニス塗って、ドライヤーで乾かす。 4) 仕上げ① ・みがき布でみがいて、つやを出す。 5) 仕上げ② ・キーホルダー…金具を付ける。 ・小銭入れ …縫い合わせる。 ・創作レザー…形を整える(切る、曲げる、折る)、貼り合わせる 等 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ・刻印の組合せを工夫することで、様々な模様を表現できる。 ・色の組合せや塗り方を変えることで、同じ模様でも異なる印象に仕上がる。 ・小銭入れの仕上げは講師が一人ずつ指導するため、時間がかかる。十分な時間を確保すること。

No.	602	ガラス工芸			
概 要	専用の機械(サンドブラスター)でガラス表面を削って模様を付けて、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ ガラスの特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	ガラス工芸 用具一式			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 中皿 ○ マグカップ			
	確認事項	・ガラスに模様を付けるサンドブラスターの数に限られているため、予め十分な制作時間とってください。又、切り抜く下絵が細かいほど時間がかかります。 ・教材のサイズにあわせて事前に下絵を準備しておくことで作業時間を短縮できます。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・めあて、安全上の注意 等 ・道具の紹介(個人で使う道具／グループで使う道具) ○ ガラス工芸の技法、作り方について ・模様(傷)がつく原理 ・作り方 ・ブラスターの使い方 ○ 道具の準備	○ 安全上の注意 ・アートナイフで怪我をしないように安全な使い方や保管の仕方を守る。 ・(作品を割らないために)机上で作業する。 両手で持ち歩く、走らない。
展開	○ 制作 1) 下絵を描き、切り抜く。 ・下絵を描く。 ・カーボン紙を使って、マスキングテープに描き写す。 ・教材にマスキングテープを貼る。 ・アートナイフでマスキングテープを切りぬく。 2) 模様を付ける。 ・ブラスターガンで模様を付ける。 ・マスキングテープをはがし、作品を水洗いする。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり回り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ・切り抜くところ、残すところを考えながら描くようにする。 ・下絵があまり細いと切り抜く作業が大変である。 ○ その他 ・作品を持ち帰る際は割れないように新聞紙等に包むことを勧める。(記名も忘れずに)

No.	603	絵付け			
概 要	素焼き教材に絵付けをし、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察			
ねらい	○ 陶器の制作過程に触れ、自分なりに表現することを楽しむ。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	絵付け 用具一式(画材含む)			
	団体で準備	【教材】 ＊いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 素焼きの皿(大／中) ○ 素焼きの湯のみ(大／中)			
	確認事項	絵付けをした作品の本焼きには数日かかります。研修を予約する際に、窯入れと窯出しの日程も併せてご確認ください。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ グループ毎に道具を準備し、教材を配布する。 ○ 講師による説明 ・絵付けの基礎(特性、技法 等)の紹介 ・作り方、道具と画材の取り扱い方 等 ・作業中の注意事項について	○ 安全上の注意 (作品を割らないために) ・机上で作業する。 ・両手で持ち歩く、走らない。
展 開	○ 制作 1) 下準備 ・スポンジで教材についている粉を落とす。 ・高台に撥水剤をぬる。 ・高台の内側に、日付、団体名、氏名を書く。 2) 絵付け ・陶芸用絵の具で器に絵(または模様、文字)を描く。 3) 仕上げ ・釉薬をつける。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。 ○ その他 1) 「素焼き、本焼き依頼書」を提出。 ・窯入れする作品数を確認し、引率者が記入。 (担当職員に提出してください。) ・本焼き完了(窯出し)の予定日を確認。 2) 作品を窯(屋外創作棟内)まで運ぶ。	○ 制作のポイント ・絵具の重ね塗りは、なるべく避ける。 ※焼成時に重ね塗りの部分が剥がれ落ちる場合があります。 ○ 作品の運搬 研修場所から窯までの作品の運搬は原則、団体が職員と一緒にいが、天候等の状況により不可の場合は後日、職員が代行する。 ○ 本焼き(窯入れ、窯出し) ・作品の焼成はサン・レイクの電気窯で講師と職員が行う。 ○ 作品の引き渡し ・窯出し後、来所のみの。

No.	604	作陶			
概 要	講師の指導により、作陶について知り、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	10人程度	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による監視			
ねらい	○ 土の感触を楽しみながら、自分なりの工夫や表現で制作することの喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	作陶に必要な用具一式			
	団体で準備	【教材】＊10kg単位で、事前に「教材等申込書」で注文してください。 ・ねん土(A-2ねん土)…1人あたり1kgが目安。(湯飲み、小皿ができる。) 【その他】 ・余った粘土を持ち帰る袋とタオル			
	確認事項	・どんなものを作るのか、事前に担当者でご相談ください。 ・作陶後に行う作業(素焼き、絵付け、本焼き)の日程について予約と打合せが必要です。 ・余った粘土は、団体が持ち帰ってください。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・分量を確認し、研修場所へ持っていく。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行う。 ○ 教材 ・返品不可。
活動の説明	○ 職員からの説明 ・講師の紹介 ○ 講師からの説明 ・作陶の仕方、作り方、用具の扱い方 ・作業中の注意事項等について ○ 道具の準備、教材の分配	○ 安全上の注意 ・道具を正しく使い、安全に活動する。
展 開	○ 制作 1) 土練り ① 荒練り(ねん土の外側と中側の水分を均等化する) ② 菊練り(空気を抜く) 2) 成形 どちらかの方法で作品を作る。 ・ろくろを使う。 ・ねん土を板条やひも状にのばす。 3) 収納、保管 ・ケースまたは乾燥棚に収納し保管。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞、感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。 ○ その他 1) 「素焼き、本焼き依頼書」を提出 ・窯入れする作品数を確認し、引率者が記入。 (担当職員に提出してください。) 2) 作品を窯(屋外創作棟内)まで運ぶ。 ※ 3) 後日の制作(日程と内容)を確認、予約	○ 制作のポイント ・作品は器に限らず、自由に作ることができるが、小さなものほど焼いた際に割れるリスクが高くなるので注意が必要。 (土練りの状態により、窯で焼いている最中に割れることがあります。) ・作陶では、 「素焼きの状態で作成」 「釉薬のみかけて完成」 「絵付け後釉薬をかけて完成」等 色々な段階の終わり方がある。 ○ 作品の運搬 ※研修場所から窯までの作品の運搬は原則、団体が職員と一緒にやるが、天候等の状況により不可の場合は後日、職員が代行する。 ○ 素焼きと本焼き(窯入れ、窯出し) ・作品の焼成はサン・レイクの電気窯で講師と職員が行う。 ○ 後日の作業工程 ① 乾燥(2週間程度) ② 素焼きして、窯出し(1週間程度) ③ 絵付け・釉薬かけ…要予約。 ④ 本焼きして、窯出し(1週間程度) ⑤ 作品の引き渡し (作品の引き渡し方法は来所のみ。)

No.	605	七宝焼			
概 要	銅板の上に絵の具や飾り(フリット)を盛り付けて、卓上の電気窯で焼成し、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2～3時間	
	対象	小学1年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ 七宝焼の技法を知り、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	・七宝焼き 用具一式(画材含む) ・瞬間接着剤 ・研磨補正用のグラインダー ・軍手			
	団体で準備	【教材】 ＊いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ キーホルダー(角型／丸型／小判型)			
	確認事項	各自が異なる教材で制作したいなど、要望があれば担当者にご相談ください。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ・火傷への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。 ・教材の裏面を確認。 (下地が焼き付けられていない場合は、表面の制作前に下地絵具の焼成が必要。)
活動の説明	○ 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 ・七宝焼の基礎知識(ルーツ、特性、技法などの紹介) ・作り方(絵手七宝／フリット七宝) ・画材と道具の取り扱い方(注意事項)について	○ 安全上の注意 <火傷に注意> ・焼成した作品はよく冷めてから触る。 ・電気窯を素手で触らない。 ○ 電気窯 ・焼成は、講師または職員が行う。
展 開	○ 制作 ＊説明を聞き、いずれかの技法を選んで、制作する。 絵手七宝 ①下地となる絵具を盛りつける。 ②電気窯で焼く。 ③冷ます。 ④下地の上に模様を盛りつける。 ⑤電気釜で焼く。 ⑥金具に取り付けて完成。 フリット七宝 ①下地となる絵具を盛りつけ、その上にフリットを乗せる。 ②電気窯で焼く。 ③冷ます。 ④金具に取り付けて完成。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓。 ・机、床、流しの周りの掃除 ○ ふり回り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ・絵具やフリットは、銅板からはみ出さない分量を盛る。盛りすぎ注意。 ・焼成は、通常1回まで。 銅板の耐性から、絵手七宝の場合でも3回位までとする。 ○ 絵具の取り扱い方について ・別の色の粒子が混ざらないよう注意。 ・画材の特性上、混色不可。

No.	606	焼き杉			
概 要	杉板を切ったり、模様や文字を焼き付けたりして、オリジナル作品を作る。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ 木の特性をいかし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	・白化粧泥 ・ブルーシート ・ガスバーナー ・電動系のこ ・金づち ・ラジオペンチ ・紙やすり			
	団体で準備	【教材】 ＊事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 杉板 ○ 吊り下げ用くさり(必要な場合のみ注文) 【その他】 ＊各自で用意してください。 ・えんぴつ、消しゴム ・軍手			
	確認事項	・電動系のこの台数に合わせて、予め活動グループ数と人数を決めておいてください。 ・教材のサイズにあわせて下絵を準備してくると作業時間を短縮できます。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・職員と引率者で持ち場を分担する。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・めあて、安全上の注意 ・作成手順、糸のこの使い方、焼き方の説明 ○ 教材の配布	○ 電動糸のこの配置 ・各グループで1台を共有する。
展開	○ 制作 1) 杉板を好きな形に切り取る。 ・杉板に下絵を描く。 ・杉板を電動糸のこで切る。 2) 泥を乗せる。 ・焼き色を付けないところ(模様や文字等)に化粧泥を乗せる。 3) 模様や文字を焼きつける。 ・杉板の表面をガスバーナーで炙って焦がす。 ・杉板の表面の化粧泥を水洗いする。 3) 仕上げ ・杉板が乾いたら、くさりを取り付ける。 ・紙やすりで、板の切り口を滑らかにする。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・電動糸のこ、机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり回り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○安全上の注意 ・道具の正しい使い方を守る。 <電動糸のこ> ・刃の取付と交換は必ず大人が行う。 ・使用しないときは、必ず電源のスイッチを切り、コードを抜く。 <ガスバーナー> ・屋外の安全な場所で使用する。 ・作業中は必ず大人が立ち会う。 ○ 制作のポイント ・できあがりを考えて化粧泥を乗せる。 ・輪郭線はくっきり焼き付ける。 ・焼きムラ等、濃淡を工夫できる。 ○ 片付け <電動糸のこ> ・電源スイッチを切り、コードを抜く。 ・刃を取り外す(大人が作業)。 ・木くずを取りのぞいてから返却する。 <ガスバーナー> ・ガス栓がしまっていることを確認し、 屋内の所定の場所に返却、保管。

No.	607	プラ板			
概 要	プラスチックの特性を活かし、加工（模様や文字を描き、焼く）してオリジナル作品を作る。				
内 容	人数（人）	～40人	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 職員による事前の説明のみ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ プラスチックを加熱すると縮む特性を楽しむ。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	・鉛筆、消しゴム、色鉛筆、マジックペン(油性) ・はさみ ・穴あけパンチ ・軍手 ・オープントスター ・延長コード ・ピンセット ・押さえ板 ・ラジオペンチ ・資料(サイズ見本、下絵)			
	団体で準備	【教材】 * いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数に合わせてご注文ください。 ○ シュリンクシート(白／透明) ○ 金具(キーホルダー／ブローチ) 【その他】 * 必要に応じて、準備してください。 ・資料(書き写したい下絵)			
	確認事項	・どんな作品を制作するのか、事前に考えておくで時間短縮できます。 ・シュリンクシートは切り分けて使用できます。余った端材で、追加して作ることもできます。 ただし、金具の当日追加はできません。(事前注文のみ)			

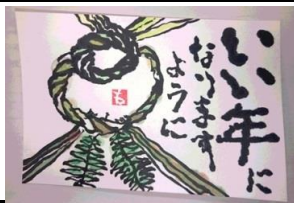
	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・めあて、安全上の注意 等 ・制作の手順、技法 ・道具や画材の取り扱い方、注意事項 ○ 道具の準備	○ 安全上の注意 ＜オープントスター＞ ・作品の出し入れは、大人が行う。 ・軍手を着用する。 ・作品はよく冷ましてから、触る。
展 開	○ 制作 1) 下絵を描いて、輪郭を切りとる。 ・シュリンクシートに下絵を描き、色を塗る。 ・絵に沿って切り抜く。 ・キーホルダーは、金具を取り付けるための穴も開ける。 2) 焼成する。 ・オープントスターで加熱し、縮みが止まったら取り出す。 ・熱くて柔らかいうちに押さえ板で挟んでしっかりと押さえる。 3) 金具を取り付ける。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり回り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ＜シュリンクシート＞ ・加熱すると約1/6に縮む。 ・透明は、溶けやすく伸びやすい。 ・白は、加熱時に丸まりにくい。 ＜下絵、キーホルダーの穴＞ 出来上がりのサイズを考えて、 ・絵は大きめに描く。 ・穴も焼く前に大きめに開ける。 ＜着色＞ ・焼いて縮むと、少し濃いめの色になるので、マジックで塗るより色鉛筆の方が明るい発色に仕上がる。

No.	608	ジェルキャンドル			
概 要	ガラスの器に砂を敷いたり、ビー玉や貝殻などの飾りを入れたりした後、ジェルを流し込んで固めてオリジナルキャンドルを作る。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	小学3年生以上	時期	通年	
	場所	創作室(第1・第2)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員の事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察と指導			
ねらい	○ 飾りなどの組み合わせやジェルの色や流し方を工夫し、制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	・用具一式 (カセットコンロ、なべ、やかん、ピンセット、アルミ箔、両面テープ、割り箸、軍手 等) ・飾り(砂、ビー玉、貝殻 等) ・染料液			
	団体で準備	【教材】 * 事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ ジェルキャンドルセット(キャンドル用ジェル、ガラス、着火用芯) 【その他】 * 必要に応じて準備してください。 ・飾りとして入れたい物(不燃性、耐熱性の物)があれば、各自で準備。			
	確認事項	飾りとして、別途「プラ板」を事前に制作しても良い。(別途制作時間が必要です。)			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行う。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・制作手順 ・注意事項 ・道具と教材の取り扱い方 ○ 道具の準備	○ 安全上の注意 ・ガス缶、コンロの取扱注意。 ・大人と一緒に作業する。 ・適宜、換気をしながら作業する。 ・軍手を適宜使用し、火傷に注意する。
展 開	○ 制作 1) 砂や飾りを入れる。 ・着火用芯をガラスの底に付ける(立てる)。 ・ガラスの中に好きな色の砂を入れる。 ・砂の上に飾りを飾る。 2) ジェルを溶かす。 ・キャンドル用ジェルを必要な分量だけ湯煎して、溶かす。 ・(染料を加える場合)湯煎したジェルに数滴加え、かき混ぜる。 ・冷めて固まったら、繰り返しまた湯煎で溶す。 3) ジェルを流し入れる。 ・溶けたジェルを少し冷まし、ガラスに注ぎ入れる。 ・ジェルが冷めて固まったら、出来上がり。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント <ジェル> ・かき混ぜると気泡が入るので、好みの出来栄えに加减して混ぜる。 ・半量固めて飾りを追加する等、何層かに分けてガラスに注ぐことも可。 ・火にかけたまま放置しない。 (ジェルは煙が出るくらい高温になると、黄色く変色する。) <飾り> ・可燃物は使用しないこと。 (ジェルが高温になるため。)

No.	609	トールペイント			
概 要	専用の板に色々な技法を使って、絵や模様を描く。 完成品は、レリーフなどに使える。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2～3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員の事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察			
ねらい	○ アクリル絵具の特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	・細目の紙ヤスリ、下地剤、アクリル絵の具、ドライヤー ・紙パレット、筆洗い用バケツ、筆(平筆／丸筆／刷毛)、綿棒、爪楊枝、キッチンペーパー 等 (紙パレットは、牛乳パックなどで代用可) ・下絵用紙、トレーシングペーパー、片面カーボン紙、鉄筆、鉛筆、消しゴム ・ニス、定着剤スプレー			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○「プラーク丸」…円形 ○「飾りレリーフ」…四角波長方形(壁掛用金具付)			
	確認事項	教材の種類や活動人数などにより、活動時間が異なりますので、事前にご相談ください。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 ・トールペイントの基礎知識(ルーツ、技法等)の紹介 ・作り方、道具と画材の取り扱い方 等	○ 安全上の注意 ・道具を正しく使い、安全に活動する。 <定着剤スプレー> ・換気が良い場所で使用する。 (屋外、窓際など)
展 開	○ 制作 1) 下地剤を塗る。 ・表面に紙ヤスリを掛ける。 ・下地剤を塗り、ドライヤーで乾かす。 2) 地塗り ・背景色を塗り、ドライヤーで乾かす。 3) 絵、模様、文字を自由に描く。 ・下書きをする。 ・色を塗って、乾かす。 4) 仕上げ ・ニス(または定着剤スプレー) …全体に塗り、乾かす。 ・金具を付ける。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ・広い面から順番に塗り重ねる。 <地塗り> ・全体を白で塗ってから好きな背景色を塗り重ねる。 ・好みにより、地塗りをせずに、白木のまま描き始めても良い。 <アクリル絵の具> 色を塗り重ねるときは、 ・必ず下の色が乾いてから塗る。 ・「下の色が透けない程度」が目安。 色の濃淡は、水で薄めるのではなく、 ・混色で調整する。 ・絵の具に水気が混ざらないように、筆の水分をキッチンペーパーで取る。 ・色が薄ければ、乾かして何度も塗る。 (水泡が無いように注意)

No.	610	絵てがみ・てん刻印			
概 要	モチーフをよく観察して構図を考え、絵を描き、言葉を添えて、オリジナル作品を制作する。				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	小学1年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察			
ねらい	○ 絵手紙の技法を知り、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	【絵手紙】 ・新聞紙 ・赤ペン ・墨、墨入れ、筆(墨専用／色付用)、絵具(顔彩)、絵皿、筆洗い用バケツ 【てん刻印(消しゴムハンコ)】 ・4Bの鉛筆 ・カッター(またはアートナイフ) ・ハサミ ・透明プラ板の端材 ・朱肉			
	団地で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 絵てがみセット(ハガキ2枚、線描きの練習用半紙1枚) ○ てん刻消しゴム(1個)…ハガキとセットではありません。別途、注文が必要です。 【その他】 ・絵てがみに描きたいモチーフとなる物(自然物、身の回りの持ち物など)。 ・てん刻印を持っている人は、持ってきて使用しても良い。			
	確認事項	【事前に相談】 ・モチーフの調達方法 (自宅等から持参／施設の敷地内または周辺を散策して採取)。 ・てん刻印を作る場合は、別途所要時間が必要です(およそ30分～1時間)。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理体制 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所へ持っていく。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 ・絵てがみの描き方(線の書き方、色のぬり方、モチーフの見方) ・制作する上で、気を付けること ・道具と画材の取り扱い方 等	○ 注意事項 <絵てがみ> ・墨で、衣服を汚さないように注意。 ・2種類の筆を用途別に使い分ける。 (線を描く墨専用の筆／色付用の筆) <てん刻印> ・刃物の取り扱いに気を付ける。
展 開	○ 制作 1) 練習 ・筆の使い方…墨用の筆の端をつまんで持つ。 ・線の描き方…半紙に墨でゆっくり描く。(縦線、横線、曲線) 2) 1枚目の作品を制作する。 ・墨で輪郭を描いて、色を塗り、言葉を添える。 ・てん刻印を捺す。(又は、手書きサインを書き加える。) 3) 2枚目の作品を制作する。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント <絵てがみ> ・ぶっつけ本番で下書きはしない。 偶然生まれる輪郭の太さや滲みなども味のある表現ととらえる。 ・モチーフをよく観察し、構図を考える。 画面いっぱいにはみ出すように輪郭を描く。 ・余白も大切に作る。 色を塗るときは、塗り残す部分も作る。 <てん刻印> 1) 名前等を下書き ・てん刻消しゴムに鏡文字で書く。 2) アートナイフ等で削る。 <手書きサイン> ・てん刻印を作らない場合は、赤ペン等で落款印風に書き入れる。

No.	611	自然のクラフト			
概 要	自然物を組み合わせて、オリジナル作品を制作する。 (フォトフレーム、葉っぱのスタンド、ストーンペイント、流木アートなど)				
内 容	人数(人)	～40人	時間	2～3時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動・職員による事前の説明のみ・職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ 自然物を使った制作活動を通して、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準 備	施設から貸出	【各グループに貸出】 ・工具 … カッター、のこぎり、ナイフ、はさみ、ダンボールカッター、ニッパー、ラジオペンチ、きり、グルーガン ・画材 … アクリル絵の具、バケツ筆洗い、色鉛筆、油性ペン、木工用ボンド			
		【各自に貸出】 ・筆 ・ペーパーパレット ・軍手(大人用／子ども用)			
	団体で準備	・教材 … 自然物(落ち葉、木切れ、木の実、木の葉、種子、石、貝殻、流木 など) ・画材 … ダンボール、画用紙など(必要に応じて) ・いれもの … 袋または箱(採取した教材や作った作品を持ち運ぶ用)			
	確認事項	【事前に相談】 ・教材の調達方法(事前に採取して持参／研修前に施設周辺で集める)。 ・活動のねらいに合わせて、どんな材料と道具を使用するか。			

	内 容	留意事項
活動前	○ 教材を準備する。 ・形や色など、気に入った自然物を集めておく。 ○ 担当職員との打ち合わせ ・安全管理 ・作業スケジュール ・片づけ、点検方法の確認 ○ 道具を準備する。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が行う。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材の採集について ・採取場所、採取物を工夫する。 (森、林、中央湖、海岸、河川、など) ・事前に採取して持参するか、または当日に施設周辺を散策して採取する。
活動の説明	○ 説明を聞く。 ・作るもの、作り方、テーマ など ・道具の使い方 ・安全上の注意 等	○ 安全上の注意 ・道具を正しく使い、安全に活動する。 ・やけどや切り傷に注意。 ・グルーガン、のこぎりを使用する際は必ず大人が立ち会う。
展 開	○ 制作 1)教材を観察 ・自然物の色や形などを観察して、創るものを決める。 ・集めた自然物の特徴(形や色)を生かして、創作する。 2)作業 ・パーツを切ったり、接着したり、塗装したりして、仕上げる。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント ・集めた自然物を利用し、楽しく自由に思い思いの作品を作る。 ・研修のねらいに応じて、テーマを決めたり、共同制作に取り組んだりしてもよい。 ○ 片付けについて ・協力して、片づけと掃除をする。 ・持ち込んだ物のゴミは、持ち帰る。 ○ 作品鑑賞 ・出来上がった作品を見せ合い、それぞれの作品の制作過程で工夫した点などを発表しあう。